

ハ約四箇月滯在ノ豫定ニテ同人ノ「アドバイス」アル迄鐵道債務ノ整理ハ一時見合スコトニ内定シ居ル様了解シ居レリト内話セリ其ノ際須磨ノ受ケタル印象ニ依レハ本件ハ「ビール」邊リヨリ顧孟餘ニ持掛け「ビ」ノ賜暇歸國前ニ一應話合纏リ居タルモノトモ想像セラレタル趣ナルカ同人

及「アデイス」「モネー」等ノ持論ニ鑑ミ本件成行ハ充分注意ノ要アリト認メラル(絕對外部ニ發表セサル様致度シ)南京、北平ニ轉電セリ

付 天羽情報部長の非公式談話問題

431

昭和9年4月18日

在独国永井大使より
広田外務大臣宛(電報)

軍事教官派遣、軍用機や政治的借款の供給など極東平和を害する諸外国の一切の行動に日本外務当局が反対を表明したとの独国紙報道について

付 記 外務省編『外務省公表集』第七輯より抜粋

「對支國際援助問題ニ關スル情報部長ノ非

公式談話」

ベルリン 4月18日後発

本 省 4月19日前着

第七九號

十八日當地新聞夕刊ハ對支國際援助問題ト關聯シ同日日本外務省カ日本ハ極東ノ平和維持ニ對シ當然ノ責任ヲ有ス支那ノ秩序恢復ハ支那自身ニ係ル所ナルニ鑑ミ日本ハ極東ノ平和ニ反スル支那政府ノ一切ノ行動ニ反対スルト共ニ他國ノ措置ニ就テモ例ヘハ支那ニ對シ軍用飛行機、軍事教官又ハ非經濟的目的ノ借款ヲ供給スル等極東ノ平和ヲ害スル措

(欄外記入一)
置ニ對シテハ抗議セサル可カラサル旨聲明シタリトノ東京發電報ヲ掲ケ各新聞共日本ノ極東ニ於ケル霸權樹立又ハ支那ニ對スル第三國ノ干與ニ對スル日本ノ反對等ノ見出ヲ附シ大ナル注意ヲ注ギ居レリ而シテ「ベルリナー、ターゲブ

(欄外記入二)
シラツト」ハ支那ニ於ケル門戸開放主義ニ反スル斯ル宣言ヲ日本政府カ爲シタル動機不明ナリト述ヘタルカ尙BZ am Mittagハ同紙通信員Schulzeノ東京發電報トシテ本件宣言ニ依レハ日本ハ假令他國ト紛争ヲ惹起スルモ極東ニ於ケル其ノ特別ノ使命ヲ遂行セントスルモノナリ日本ハ共同ノ技術及財政的對支援助モ結局政治的性質ヲ有シ支那極東及日本ニ取り重大ナル結果ヲ齎スモノナリト爲スモノニシテ外務當局ハ日本ハ極東ノ平和ノ脅威サルルニ對シテハ積極的行動ヲ執ラントスルモノナリト述ヘタリトノ通信ヲ掲ケ日本ハ武力ヲ以テ脅威ストノ表題ノ下ニ本件宣言ハ支那ノ政治的事態カ日本ノ欲スルカ如キ發展ヲ爲ササル場合ニ對シ戰爭ノ威嚇ヲ意味スト評シタリ

(欄外記入一)
如何ナル故障アルモ主義一貫スベシ

門戸開放ニ反セス

(付記)

對支國際援助問題ニ關スル情報部長ノ非公式談話

(四月十七日及二十日)

(イ) 四月十七日情報部長ハ定期會見ノ際記者團ニ東亞ニ於ケル日本ノ立場ニ付左ノ趣意ノ非公式談話

亞ニ於ケル日本ノ立場ニ付左ノ趣意ノ非公式談話ヲ試ミタ。

日本ハ滿洲事變及滿洲國問題ニ關シテ昨年三月聯盟脫退ヲ通告スルノ止ムヲ得サルニ至ツタカ、之ハ東亞ニ於ケル平和維持ノ根本義ニ就キ、日本ト國際聯盟トノ間ニ意見ノ相違ヲ見タ爲テアル。日本ハ諸外國ニ對シテ常ニ友好關係ノ維持増進ニ努メテ居ルノハ云フ迄モナイカ、東亞ニ關スル問題ニ就テハ、其ノ立場及使命カ列國ノ夫レト一致シナイモノカアルカモ知レナイ。日本ハ東亞ニ於ケル平和及秩序ノ維持ハ當然東亞ノ諸國ト責ヲ分ツヘキテアル。日本ハ東亞ニ於ケル平和及秩序ヲ維持スヘキ使命ヲ全フスル決意ヲ有シテ居ルカ、右使命ヲ遂行スルカ爲ニハ、日本ハ先ツ友本トシテハ之ヲ黙過スル事カ出來ナイ。

併シ右ノ如キ行動カ東亞ノ平和及秩序ヲ攬亂スル性質ナラハ、之ニ反対セサルヲ得ナイ。例ヘハ武器、軍用飛行機等ヲ供給シ、軍事教官ヲ派遣シ、政治借款ヲ起スカ如キ事ハ、結局支那ト日本其ノ他諸國トノ關係トヲ離間シ、極東平和及秩序ノ維持ニ反スル結果ラ生スル事ハ明テアルカラ、日本トシテハ之ヲ黙過スル事カ出來ナイ。

絞上ハ日本ノ從來ノ方針カラ當然演繹セラルヘキモノテアルカ、最近諸外國カ支那ニ對シ共同援助等ノ名義テ積極的進出ノ形跡顯著ナルモノアルカ故ニ、此ノ際我日本ノ立場ヲ明ニスルノモ必シモ徒爾ナラスト信スルモノテアル。

(ロ) 四月二十日情報部長ハ外國新聞記者トノ定期會見ニ於テ質問ニ應シ、前記ノ談話ニ付左ノ通説

明ヲ加ヘタ。

余ハ先日ノ談話ニ對スル海外ノ反響ヲ意外トシテ居ル。先日ノ談話ハ今年一月外務大臣ノ議會ニ於ケル演説ノ趣旨ヲ敷衍シタニ過キナイ。此ノ演説ハ世界ニ好感ヲ以テ迎ヘラレタノテアル。

邦支那ト共ニ平和及秩序ノ維持ニ努メナケレハナラナイ。從ツテ支那ノ保全、統一乃至秩序ノ恢復ハ、日本ノ最切望スル所テアル。併シ支那ノ保全、統一及秩序ノ恢復ハ、支那自身ノ自覺又ハ努力ニ待ツ他ナキハ、過去ノ歴史ニ徵シテモ明テアル。故ニ支那ニシテ、若シ他國ヲ利用シテ日本ヲ排斥シ東亞ノ平和ニ反スル如キ措置ニ出テ、或ハ夷ヲ以テ夷ヲ制スルノ排外策ヲ採ルカ如キ事アラハ、日本ハ之ニ反対セサルヲ得ナイ。他方列國側ニ於テモ、滿洲事變、上海事變カラ生シタ特殊ノ状態ヲ考慮ニ入れ、支那ニ對シテ共同動作ヲ執ラントスル如キ事アラハ、假令名目ハ財政的又ハ技術的援助ニアルニセヨ、政治的意味ヲ帶フル事ハ必然テアツテ、若シ其ノ形勢カ助長セラル時ハ、遂ニ支那ニ於ケル勢力範圍ノ設定トナリ、或ハ國際管理又ハ分割ノ端緒ヲ開クコトトナリ、支那ニ取ツテハ非常ナル不幸ヲ來タスノミナラス、東亞ノ安全惹ヒテハ日本ニ對シテモ重大ナル結果ヲ及ホス虞カアルノテアル。從テ日本ハ主義トシテ之ニ反対セサルヲ得ナイ。併シ各國カ支那ニ對シ個別的ニ經濟貿易上ノ交渉ラナスカ如キハ、東亞ノ平和及秩序維持ニ支障ヲ及ホササル限り、之ニ干渉スル必要ヲ認メナイ。

任ヲ荷フモノテアリマスカラ、吾人ハ一日モ此ノ意識ヲ離レテハナラヌノテアリマス」云々又

「米國側ニ於テモ複雜ニシテ特異ナル東亞ノ事態ヲ十分ニ認識シ、我國カ東亞平和ノ安定力タル所以ヲ諒解スルニ於キマシテハ、日米間ノ感情ノ緊張ハ自ラ緩和セラルヘキヲ確信シテ疑ハサル次第テアリマス」云々又

「帝國政府ハ東亞ニ於ケル平和ノ維持ニ付重大ナル責任ヲ感シ、且確固タル決意ヲ有スルモノテアリマス」云々ト述ヘラレテ居ル。

日本ハ支那ノ獨立及權益ヲ侵害スル意思ハナイ。日本ハ支那ノ保全、統一及繁榮ヲ希望シテ居ル。若シ支那カ統一セラレ繁榮ヲ見ル場合ハ、日本ハ地理的の關係ヨリ其ノ利益ヲ分タルヘキ立場ニアル。然シ統一及繁榮ハ支那自身ノ覺醒及努力ニ待ツヘキモノテ、他國ノ利己的開發ニ依ル可キテナイ。

日本ハ第三國ノ權利ヲ害スル意思ハナイ。第三國カ支那人ノ利益ノ爲ニ支那ト通商上ノ取引ヲナスハ日本ハ之ヲ歡迎スル。日本ハ素ヨリ支那ニ於ケル門戸開放及機會均等主義若クハ現ニ有效ナル諸取極ヲ無視スル意思ハナイ。併シ日

本ハ各國カ如何ナル形ニ於テモ東亞ノ平和及秩序ノ攪亂ニ導ク行動ヲ爲スコトニ對シテ反対スル。日本ハ東亞ニ於ケル平和秩序ノ維持ニ就テハ、東亞ノ諸國殊ニ支那ト其ノ責ヲ分ツノテアル。諸外國又ハ聯盟カ支那ニ對シ利己本位ノ政策ヲ實行スル時代ハ過キ去ツタ。(以下省略)

432 昭和9年4月19日 在中國有吉公使より

廣田外務大臣宛(電報)

対中國國際援助問題に関する天羽情報部長の
非公式談話を非難する中國紙報道について

上海 4月19日後発
本省 4月19日後着

第三〇三號

列國ノ對支共同援助ニ關スル外務當局談ニ對シ十九日各紙ハ左ノ通リ論評シ居レリ

所謂政治借款ナルモノハ日本人ノ謠言ニシテ識者ノ一笑ニ值セス又「支那ニ對スル列強ノ援助カ助長サルレハ勢力範圍設定又ハ國際管理乃至分割ノ關係ヲ生スルモノナリ」ト

爲スモ日本ノ東四省ニ於ケル行動ハ勢力範圍ノ復活ニ外ラス又「支那ノ保全ト統一ハ日本ノ切望スル處ナリ」ト爲スモ支那ノ領土ヲ分裂セシメ支那ノ建設ヲ阻止シテ支那ヲ保全ストハ解スヘカラサル理窟ナリ日本ノ欲望ヲ満足セシメンカ爲ノ支那ノ保全ハ支那自身ノ立場ヨリ見レハ絶対ニ許容スヘカラサル事ナリ

申報 日本ノ非公式聲明ノ作用ハ

一、支那ノ市場ヨリ歐米ノ經濟的勢力ヲ驅逐シ日本カ之ヲ獨占セントスルモノニシテ少クトモ今後歐米ノ勢力ノ支那侵入ヲ阻止セントスルモノナリ

二、支那ヲ孤立無援ニ陥レ日本ノ憐ヲ請ハサルヲ得サラシメントスルモノナリ

三、支那ト聯盟トノ合作ノ支持者ハ英國ナルカ英國ハ日本ノ目ノ敵ナレハ英ノ勢力ヲ支那ヨリ驅逐セントスルモノナリ即チ日本ハ强硬態度ヲ以テ英ヲ威脅セントスルモノナリ

四、米國ノ對支投資熱ハ棉麥借款ノ失敗ニ依リ稍減退セル感アルモ米ハ支那ノ富源ト大ナル消費力ヲ忘ル能ハス巨

ワシントン 4月19日後発
本省 4月20日前着

第二二一號

⁽¹⁾十七日東京發A、Pハ「日本ノ對支政策ヲ再述シ明確ナラシムル案」ナルモノ貴大臣ノ決裁ヲ得ル爲外務省ヨリ提出セラレタリトテ之ヲ報シ次テ十八日外務省「スポーツスマン」ノ談トシ日本ハ極東ノ平和維持ヲ政策ノ根幹トシ外國カ力ヅクニテ極東ノ平和ヲ亂スカ如キ場合ニハ日本モ武力ニ訴フルノ已ムヲ得サルコト有ルヘキ旨及外國ノ對支援助カ平和ヲ害スルヤ否ヤノ判斷ハ日本ノミカ之ヲ爲スヘキ地位ニ有ル旨述ヘタリト報シタルカ右ニ關シ十八日紐育「ヘラルド・トリビューン」及華府「イーヴニング・スター」ハ左ノ如キ論説ヲ掲ケタリ不取敢

「トリビューン」

日本ハ極東平和ノ擁護者タラントスルカ如キモ過去ニ於

ル日本ノ積極的行動例ヘハ二十一箇條要求及滿洲奪取等カ何レモ東洋平和保持ノ爲爲サレタリトノ日本ノ説明ヨリ見レハ右ハ甚々不吉ナル言葉ト云フヘシ而シテ斯ル危惧ノ理

由有ルコトハ今回ノ草案中ニ日本ハ列國カ支那ニ對シ軍用

433 昭和9年4月19日 在米國齋藤大使より

廣田外務大臣宛(電報)

天羽非公式談話に関する米國紙報道振りについて

ヲ爲スコトニ反對スルノ權利有リト爲シ日本カ支那ニ名義上ノ獨立及條件附ノ主權ヲ許シ之ヲ保護國ノ狀態ニ置カン
トスルカ如キ字句有ルヨリ見ルモ明カナリ日本カ支那ニ對
シスル程度ノ霸權ヲ確立セントスルハ新ナル野心ニ非シ
テ二十一箇條要求及安福派ニ對スル多大ノ金及武器ノ供給
ニ依リ贖ハントシタル所ニ於テモ明カニ現ハレタルコトナ
ルカ日本カ歐米ニ對シ支那ヲ保護領ト爲スノ權利ヲ主張シ
支那ニ對スル技術的、財政的援助力必然的ニ軍事的、政治
的ノモノトナルトノ理由ヨリ外國ノ利益又ハ勢力ヲ排除セ
ントスルハ數年前石井子爵ノ「バツロン・デ・エッセー」
ヨリモ豫見サレタル所ニテ同子爵カ極東ニ於ケル日本ノ
「モンロー」主義ト稱ヘタルハ即チ之ナリ從テ外務省聲明
中ノ驚クヘキ點ハ支那ヲ保護領ト爲サントスルコトニ非ス
シテ日本カ自ラ支那ノ對外事項ノ監督者ヲ以テ任セントス
ル事ヲ世界カ裏書スヘシト期待シ居ル點ナルカ西洋諸國カ
日本ニ對シスル委任ヲ爲スハ主要國ニ於テ九國條約及其ノ
主義ノ廢棄ニ同意シ而モ或ル一國ノ誠意ニ前例無キ信賴ヲ
置キテノミ始メテ爲サルル所ナリ

(2) 日本カ眞實極東平和ノ保持者ヲ以テ任シ此ノ際之カ國際的承認ヲ求メントスルモノトセハ右ハ日本カニツノ事實ヲ示サントスルコトナル其ノ一ハ日本ハ既ニ九國條約ヲ破リタルニ付之ヲ無效ノモノト見ルトノコト其ノ二ハ日本ハ西歐諸國ヲシテ日本ノ誠意ニ信賴セシムルカ如キハ價値ナシト爲スコト之ナリ日本カ現狀ニ於テ支那ニ對スル他國ノ權利ヲ排除スルカ如キ權力ノ承認ヲ求メントスルハ世界ヲシテ聯盟カ日本ニ課シタル道德上ノ孤立ナル判決ノ理由アルコトヲ悟フシムルモノナリ

今回ノ外務省ノ對支政策ニ關スル聲明程驚クヘキモノナシ
其ノ目的ハ平和ニアルカ如キモ日本ハ必要アラハ武力ニ訴
フルヲ辭セスト爲ス點ハ各國ノ注意スル所ナルヘシ其ノ政
策中新規ナルコトハ日本ハ米國ヲ含ム諸外國カ支那ノ空軍
援助若ハ財政的助力ヲ與フルコトニ反対スト云フ點ニアリ
日本ハ米國ノ對支飛行機賣込又ハR、F、C借款ニ何ノ程
度迄反対ナルヤ明カナラサルモ斯ル技術的若ハ財政的援助
カ日本ノ危惧ト敵意ヲ招キタルコト疑ナシ日本ノ斯ル對支
政策カ外國ヨリ承認セラレサルヘキコト云フ迄モナキ處右

ハ西歐諸國ヲシテ日本ハ滿洲占據ニ飽足ラスシテ支那全土ヲ征服セサレハ已マサルヘシトノ疑念ヲ起サシム從來日本ハ極東ニ於テ米國カ「モンロー」主義ニ依リ北南米ニ於テ爲ス所以上ノモノヲ望マスト稱シ居ル所日本カ支那ニ對シ地理上、人種上特殊ノ關係ニアルコトハ之ヲ認ムルモ諸外國ハ日本ノ軍國主義者カ支那ヲ勢力範圍トセンカ爲諸外國ノ支那ニ對スル條約上ノ権利及通商上ノ利益ノ侵害セラルルコトヲ許スヘキニ非ス

434
昭和9年4月19日
在英國松平大使より
広田外務大臣宛(電報)

天羽非公式談話に関する英國紙報道振りについて
ロンドン 4月19日後編

本省 4月20日前着

第三〇七號

列國乃至聯盟ノ對支援助ニ關スル十八日我方聲明ハ十八日夕刊並二十九日朝刊諸紙ニ東京通信トシテ掲ケラレ居ル處「タイムズ」ヘ Japanese aims in China Powers warned

レス恐ラク日本ハ武力ニ依ル干渉ノ威嚇ヲ以テ列國ノ對支融資家ニ對支擾亂ニ依ル資金喪失ノ危險ノ大ナルヲ思ハシメ其ノ融資ヲ手控セシメハヌスルニアルヤニモ推測セラル」ハ々ト述べ「ガーデニア」ヘ Japan warns the world new Monroe Doctorine exclusive rights in China ナル見出シノ通信並「ライヒヤ」宋子文等ノ活動ニ關シテハ昨夏モ日本側ヨリ同様ノ聲明アリタルカ今回ハ一層強キ言ヒ廻シハ爲シ脅ノリハ々トノ短評ヲ載セ「メール」ヘ Threat advisers メ題シ極東平和ノ將來ニ重大ナル影響ヲ及ホス to use force if necessary no foreign loans plans or

警告ナリト冒頭シ同通信ヲ掲ケタル上北平電報トシテ支那側ハ「支那ハ獨立國ニシテ何國ヨリモ命令ヲ受クル事ナシ」ト憤慨シ居ル旨附加シ居レリ
米、在歐(除土)各大使及壽府へ郵送セリ

435 昭和9年4月20日 在ジユネーヴ横山国際會議事務局長
代理兼總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

天羽非公式談話の趣旨をAP通信員に対し説明について

ジユネーヴ 4月20日後発
本 省 4月21日前着

第八四號

二十日A、P、通信員「シャーキー」本官ヲ來訪今同ノ對支政策ニ關スル當局聲明ノ趣旨ニ付説明ヲ求ムルト共ニ聯盟側ニ對シ何等ノ措置ニ出ツルヤト尋ねタルニ付本官ハ右聲明ノ趣旨ハ支那ノ現狀カ内政不統一ニシテ北方政權ハ滿洲國ト速ニ平常關係ヲ回復シ日本ト友好關係ヲ維持スルコト東亞ノ平和維持及支那統一ニ緊切ナルヲ認識シ居ルニ拘

436 昭和9年4月21日 広田外務大臣より
在米國齋藤大使、在英國松平大使、在中國有吉公使他宛(電報)

天羽非公式談話に関する我が方応答要領について

ラス南方派ニハ政權ノ爭奪上若ハ嫉妬ヨリ之ニ反抗シ第三國等ノ援助ヲ得ントスル者有リ蔣介石ハ此ノ間ニアリテ未タ何レノ途ヲ取ルヤ決心付カス從テ斯カル状勢ノ下ニ於ケル第三國ノ支那ニ對スル物的援助ハ徒ラニ政争ノ具ニ供セラルノミニシテ東亞ノ平和ヲ攪亂スルニ至ル危險アルニ鑑ミ東亞平和ノ責任者タル日本トシテ之ヲ未然ニ阻止セントスルノ外他意無シ素ヨリ支那ニ對スル第三國ノ平和的通商的活(動)ヲ阻止セントスルモノニ非ス日本カ依然支那ニ對スル門戶開放機會均等主義ヲ尊重スルハ當然ナリト說明シ尙聯盟ニ對シテハ必要ト認メラル場合適當ナル機會ニ於テ非公式ニ我方態度ヲ説明シ日本ヲ除外スル聯盟ノ對支技術援助カ右ノ如キ危險ナル事態ヲ生スルノ惧レアルコトニ付注意ヲ喚起スルコト有リ得ヘシト答ヘ置キタリ
英米佛獨伊ヘ轉電セリ

合第四三五號

本省 4月21日発

本大臣發在支公使宛電報第一二五號ニ關シ

外務省係官ノ非公式意見發表ニ關聯シ當方ニ於テハ左ノ通りノ趣旨ヲ以テ説明シ居リ二十日ノ定期會見ノ際外國新聞記者ニ對シテモ其趣旨ニテ應答シタリ御参考迄尙本件ニ拘スル貴任國ノ論調及其ノ傾向等隨時報告アリタシ
一、日本ハ何等支那ノ獨立性ヲモ亦其ノ利益ヲモ害シ又ハ害セントスル意志ナキノミナラス衷心ヨリ其ノ保全統一及繁榮ヲ希望ス而シテ支那ノ保全統一及繁榮ハ主義トシテ支那自身ノ覺省及自然ノ發達ニ委セラルヘキモノナリ

三、日本ハ支那ニ於ケル第三國ノ如何ナル利益ヲモ害セントスルノ意向ナシ第三國カ經濟通商上ノ取引ヨリ支那ニ接スルハ支那ノ爲ニ利益ヲ齎スヘク日本ハ寧口之ヲ歡迎ス

ルモノナリ日本ハ素ヨリ支那カ門戶開防機會均等等ノ主義ニ反スルコトヲ希望セサルノミナラス支那ニ關スル諸取極メヲ遵守スルモノナリ
三、然レトモ日本ハ如何ナル形ニ於テモ各國カ共同ノ力ヲ以テ東亞ニ望^(露カ)ミ東亞ノ平和及秩序維持ニ反スル行動ヲ取ル

天羽非公式談話に対する中国外交部スパーク

南京 4月21日 ^(編註)発
本省 4月22日前着

437 昭和9年4月21日 在南京須磨總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

天羽非公式談話に対する中国外交部スパーク

スマンの非公式声明について

四月十七日ノ所謂天羽聲明ニ對シ十九日南京政府外交部

「スポーツマン」ハ次ノ如キ非公式聲明ヲ發表セリ

支那ハ國際平和カ世界各國ノ協力ニ依リ維持セラルヘキモノタルヲ信シ居タルカ苟クモ國家間ニ恒久ノ平和ヲ維持セント欲セハ須ク相互了解ノ真摯ナル精神ヲ促進シ紛争ノ根本原因ヲ除去スルヲ要ス何國ト雖モ世界ノ如何ナル地方ニ於テモ自國ノミ獨リ國際平和維持ノ責任アル旨ヲ主張シ得ルモノニ非ス

支那ハ聯盟ノ一員ナレハ國際合作ヲ提唱シ國際ノ平和ト安

全ヲ促進スルヲ以テ其ノ當然ノ義務ト認メ居レリ而シテ

此ノ目的達成ノ爲努力スルニ當リテハ何等他國ノ利益ヲ侵害スルノ意志ナク又東亞ノ平和ヲ攬亂セムトスルカ如キ念

更ニナシ支那カ敍上目的ヲ達成セム爲他國トノ間ニ生シタル關係ハ其ノ性質ニ於テ獨立主權國家間ノ當然ノ關係タルニ過キサルナリ

特ニ指摘セサルヘカラサルハ支那ト他國トノ合作問題ニシテ借款タルト技術的援助タルトヲ問ハス其ノ協力ハ嚴ニ政治的性質ヲ有セサル事項ニ限ラレ居リ軍用品例ヘハ軍用飛行機ノ購買及軍事教育或ハ専門家傭聘ノ如キハ國防即チ主トシテ本國ノ秩序及安寧維持ノ目的ニ出タルモノニテ他

(1) 第三二六號 二十日 A D 情報

十七日ノ外務省聲明ハ當地各界ニ異常ナル「センセイション」ヲ捲起シツツアリ各團體ニ於テモ寄々反對ノ意思表示ヲ爲ス爲協議ヲ進メ居レルカ大体ニ於テ

一、一般識者間ニテハ支那ノ現狀ニ於テ聯盟其ノ他列國トノ經濟合作等言フヘクシテ容易ニ行ハレ難キニ拘ラス日本外務省カ突如此ノ擧ニ出タルハ效果ノ問題ハ別トシ其ノ時機ニ非スト云フ意見多シ

二、當地各界有識者ヲ以テ組織セラレ居ル國際問題研究會ニ於テモ連日對策協議ノ爲會合ヲ催シ居リ今日自分モ之ニ參加シタルカ同會ニ於テハ今次ノ聲明ヲ以テ直接ニハ「ライヒマン」ノ歸壽及中國建設銀行公司ノ組織ニ刺戟セラレタル結果ト看做シ居ルト共ニ之ニ依リ支那側及國際方面ノ反響ヲ試探セン魂膽ニ出タルモノト見解ヲ有シ居レリ

三、尙同會ニ於テハ本件ニ對シ英國側カ未タニ何等意思表示ヲ爲ササルハ態ト本件ヲ重視セサルコトニ依リ日本政府ニ對シ釋明ノ餘地ヲ與ヘントスル用意ニ出タルモノナ

438 昭和9年4月21日 在中國有吉公使より
廣田外務大臣宛(電報)

天羽非公式談話に対する上海各界有識者層の
見解および外交部対応振りへの不満について
上海 4月21日後発
本省 4月21日後着

支、北平へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

編注 午前、午後不明。

意アラス他國ニシテ苟モ野心ナケレハ支那ノ建設及安(全)保障政策ニ對シ何等憂慮ノ要無シ日支關係ノ現狀ニ顧ミ強調セサルヲ得サルハ他國家間ニ於ケルト同様兩國間ニ於テモ真正且ツ恒久ナル平和ハ須ク善意ト相互了解トヲ基礎トスヘキモノニテ現在ノ不幸ナル事態カ是正セラレ又兩國關係カ兩國相互ノ願望ヲヨク考慮シタル新基礎ニ立脚セシメラルニ於テハ(一語脱)ノ和平基礎モ鮮カラス固メラルヘシト云フ點ナリ

国民党宣伝部より各新聞社に対し天羽非公式談話を排撃する論説掲示方指示との情報について

439 昭和9年4月21日 在中國有吉公使より
廣田外務大臣宛(電報)

滿、北平、天津、濟南、青島、南京、漢口、福州、廣東、香港へ轉電シ、上海へ轉報セリ

申報總主筆ヨリノ聞込ニ依レハ十七日ノ外務省聲明ニ對シ
南京中央黨部宣傳部ハ十八日夕刻當地各新聞社ニ對シ電報
ヲ以テ右ハ

(一)、滿洲國ニ對スル門戶開放及外資歡迎ニ關スル日本從來
ノ聲明ノ虛偽ナルコトヲ證明シ

(二)、中國市場ノ獨占ヲ目的トシ

(三)、廣田「ハル」ノ交換公文ノ無誠意ナリシコトヲ裏書シ
及

(四)、中國ヲシテ孤立無援ニ陥レントスル魂膽ニ出テタルモ
ノナリ

トノ趣旨ノ下ニ日本排撃ノ論說ヲ掲クヘキ旨密令シタル趣
ナルカ往電第三〇三號等連日ノ各紙社説ハ右密令ノ趣旨ニ
基クモノトモ認メラル

北平、南京、天津へ轉電シ、上海へ轉報セリ

~~~~~

441 昭和9年4月21日 在ソ連邦大田(為吉)大使より  
広田外務大臣宛(電報)

天羽非公式談話に關するソ連紙報道振りについて

モスクワ 4月21日後発  
本 省 4月22日後着

第一九一號

十八日本邦各紙掲載ノ對支方針ニ關スル外務省非公式發表  
ニ關シ

二十一日ノ「ラ、インダストリ、アリザーチヤ」(重工業委  
員部機關紙)ハ「試驗的爆裂彈」ト題スル匿名者N・N・ノ  
論評ヲ掲載シタルカ其ノ要旨左ノ如シ(他ノ新聞ハ未夕論  
評セス)

日本ノ平和的態度ニ關シ廣田外相カ「ハル」氏ニ言明ヲ爲  
シタル足許ヨリ早クモ實質ニ於テ公然支那ヲ保護國タラン  
ムルニ等シキ非公式外務省發表ナルモノ現ハレタリ右發表  
ハ要スルニ日本カ次ヨリ次ベト支那各省ヲ掠取シタリトテ  
支那ハ敢テ抵抗スヘカラス支那ハ極メテ柔順ニ日本ノ打撃  
ヲ甘受セサルヘカラスト爲スモノニシテ又日本カ滿洲ニ於  
ケル軍事上ノ成功ニ陶醉シ總ユル大資本國ヲ相手トシテ事

## 第三二八號

## 二十日AD情報

440 昭和9年4月21日 在仏國佐藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

天羽非公式談話を非難する在仏國中國公使館

## 声明について

申報總主筆ヨリノ聞込ニ依レハ十七日ノ外務省聲明ニ對シ  
南京中央黨部宣傳部ハ十八日夕刻當地各新聞社ニ對シ電報  
ヲ以テ右ハ

(一)、滿洲國ニ對スル門戶開放及外資歡迎ニ關スル日本東京  
ノ主權ヲ害シ東亞ノ資源、支那ノ廣汎ナル商業市場ヲ監督

十一日當地新聞中之ヲ掲載セル新聞ハ極メテ少數ナリ  
日本政府今回ノ宣言ハ再ヒ日本ノ傳統的侵略主義殊ニ支那  
ノ主權ヲ害シ東亞ノ資源、支那ノ廣汎ナル商業市場ヲ監督

セントスル日本ノ野心ヲ表明セルモノナリ權利義務ニ忠實  
スルモノニ非ス列國亦然リ支那政府ハ既ニ在日公使ニ右宣  
言ニ關スル日本政府ノ說明ヲ求メ居レリ三十年來極東ノ平  
和ハ田中覺書ノ主義ニ依リ絶エス混亂セラレタリ平和確保  
ノ爲必要ナルハ日本カ其ノ帝國主義ヲ拠棄スルコトナリ  
米へ轉電シ、在歐各大使、壽府へ郵送セリ

## 第二三五號

二十日當地支那公使館ハ列國ノ支那援助ニ關スル日本東京  
特電ニ付左ノ趣旨ノ「コムミニケ」ヲ發表シタリ尤モ二

日本政府今回ノ宣言ハ再ヒ日本ノ傳統的侵略主義殊ニ支那  
ノ主權ヲ害シ東亞ノ資源、支那ノ廣汎ナル商業市場ヲ監督

セントスル日本ノ野心ヲ表明セルモノナリ權利義務ニ忠實  
スルモノニ非ス列國亦然リ支那政府ハ既ニ在日公使ニ右宣  
言ニ關スル日本政府ノ說明ヲ求メ居レリ三十年來極東ノ平  
和ハ田中覺書ノ主義ニ依リ絶エス混亂セラレタリ平和確保  
ノ爲必要ナルハ日本カ其ノ帝國主義ヲ拠棄スルコトナリ  
米へ轉電シ、在歐各大使、壽府へ郵送セリ

パリ 4月21日後発  
本省 4月22日前着

パリ 4月21日後発  
本省 4月22日前着

實上支那ヲ自國ノ勢力範圍ナリト聲明セルニ等シキモノナ  
リ之カ目的ヲ具体的ニ述フレハ日本ハ先ツ南京政府ヲ壓迫  
シテ其ノ行ヒツツアル國際銀行團トノ交渉ヲ決裂セシメン  
トス蓋シ日本ハ右交渉ヲ目シテ米國及歐洲ノ列強カ日本ノ  
大亞細亞主義ニ對抗シテ統一戰線ヲ張ルモノト爲シ居レハ  
ナリ又右發表ハ南京ヲシテ正式ニ滿洲國ヲ承認セシメ日本  
ノ北支ニ對スル事實上ノ保護ヲ認メシメントスル策略ニシ  
テ更ニ米支間二行ハルル飛行場ノ開設、顧問教官招聘等ノ  
交渉ヲ中止セシメントスルニアリ近來日本ハ盛ニ親善使節  
ヲ米國ニ派シ齋藤大使ヲシテ日米親善ヲ交渉セシメ多邊的  
不侵略條約ヲ提議シ居レルカ今回ノ發表アルヤ米國新聞中  
ニハ右發表就中武力使用ノ決心ヲ示セル點ヲ以テ甚シク米  
國側ノ不滿ヲ惹起シタリト爲シ又ハ折角好轉セントセシ日  
米國交ノ惡化スヘキハ明カナル事實ナリト述フルモノアル  
ニ至レリ日英關係亦各種ノ問題ニ關聯シテ惡化シ居リ更ニ  
又佛伊兩國モ日本ノ態度ヲ快シトセサル始末ニシテ事態斯  
ノ如クンハ今回ノ如キ日本ノ態度ハ危險極マル暗中ヘノ飛  
込ニ非スヤ云々

## 天羽非公式談話の趣旨に関する国際記者団との質疑応答について

(2) 往電第八四號ニ關シ  
ジユネーブ 4月24日後着  
本省

其後モ當地外國新聞記者ニ對シ大体同趣旨ノ説明ヲ與へ來  
レルカ同記者中ニハ種々ノ臆測ヲ逞フスル者アリ旁此ノ際  
我方ノ的確ナル立場ヲ闡明スル事必要ナリト認メ屢次貴電  
ノ御趣旨特ニ貴電合第四三五號ノ内容ヲ敷衍セル非公式  
「ステートメント」ヲ作成ノ上二十三日午後當地國際記者  
團ニ對シ「インター・ヴィウ」ヲ行ヒタル爲來會者三十名ヲ  
越エ右「ステートメント」ニ關スル本官ノ口頭説明ヲ熱心  
ニ聽取シタルカ更ニ種々ノ質問ヲ發シタル者アリ其中主要  
ナルモノ及之ニ對スル本官ノ應答要旨左ノ通

(一) 支那及東亞ノ諸國ト共ニ責ニ任ストアル處右諸國ハ何國

(2) 九ヶ國條約トノ關係如何トノ質問ニ對シ日本ハ素ヨリ既  
存條約ヲ尊重ス可ク本宣言ノ趣旨モ右條約上ノ義務ノ範  
圍内ニ於テ其目的ヲ達セントスル事モ勿論ナリト答フ  
(3) 日本ノ主張ハ畢竟東亞「モンロー」主義ヲ宣言セントス  
ルモノナリヤトノ質問ニ對シ「モンロー」主義ト言フモ  
是ニハ歴史的ニモ幾多ノ解釋アリ日本ノ態度ヲ斯ノ如キ  
語ヲ以テ表ス時ハ誤解ヲ招ク惧アリト答フ  
(4) 日本ハ支那ニ一種ノ後見者タラントスルモノニシテ右ノ  
如クセハ支那カ主權國タルニ鑑ミ支那カ日本ノ要求通ニ  
セサレハ反ツテ紛争ヲ招來スルニ非スヤトノ問ニ對シ日  
本ハ決シテ支那ヲ保護國扱スルノ意思無シ善隣國トシテ  
友好的指導ヲ試ムルニ過キス醫者カ病人ニ自己ノ適當ト  
信スル療法ヲ勧告スルカ如シト答フ  
(5) 外國ノ援助カ果シテ東亞ノ平和維持ニ害アリヤ否ヤハ何

(一) 支那及東亞ノ諸國ト共ニ責ニ任ストアル處右諸國ハ何國

人カ之ヲ判定スルヤトノ問ニ對シ右判定ハ關係國ニ於テ  
之ヲ異ニスル事アル可キハ數名ノ醫者カ診斷及療法ヲ異

ニスルカ如シ日本トシテハ外國ノ意見カ日本ノ信スル處  
ニ合致セン事ヲ期待スルモノナリト答フ

(6) 外務省係官ノ聲明トシテ新聞ニ傳ヘラルル處ニ依レハ日  
本ハ實力ニ訴ヘテ其主張ヲ貫徹スル由ナルカ果シテ然リ

ヤトノ問ニ對シ今ノ處實力行使ハ考慮シ居ラス我方ノ友  
誼的勸告ヲ列國ニ於テ了解セン事ヲ希望スルモノナリト

答フ  
(7) 日本ノ聲明ハ聯盟ノ對支援助ニ對抗スルモノナリヤトノ  
問ニ對シテハ聯盟ノ援助ト雖モ支那ニ於テ惡用セラルレ  
ハ平和ニ有害ナル上ニ聯盟ニ對シテモ同シク注意ヲ喚起  
スルノ趣旨ヲ含ム事勿論ナリト答フ

英、佛、米ヘ轉電シ英佛ヲ除ク在歐各大公使ヘ暗送セリ  
~~~~~  
昭和9年4月24日 在英國松平大使より
廣田外務大臣宛(電報)

天羽非公式談話に関する英国外相の下院での答弁について

ナリヤトノ質問ニ對シ本官ハ右ハ地理的意味ヲ有スト說
明セルニ蘇聯ハ如何トノ推問アリ本官ハ蘇聯ニシテ眞ニ
平和維持ノ誠意アラハ之ト責ヲ共ニスルニ吝ナラスト答
フ
別電 四月二十四日發在英國松平大使より廣田外務
大臣宛第二一五号
英國政府が公表した在本邦同國大使館作成の
天羽非公式談話英文要領
第二十四號
對支政策「ステートメント」ニ關シ
廿三日下院ニ於テ保守、自由兩黨及無所屬議員計七名ヨリ
質問アリタルニ對シ「サイモン」ハ日本政府ヨリハ何等通
告ニ接セサルモ在東京大使ヨリ外務省「スポークスマン」
ノ日本新聞ニ與ヘタル口頭ニ依ル非公式聲明ノ譯文ナルモ
ノノ「テキスト」ヲ受取リタリ、右「テキスト」ハ公報ト
シテ廻付スヘシ、本件聲明ハ平和、日支間ノ友好又ハ支那
ノ保全カ他國ノ支那ニ於ケル或行動ニ依リ危險トナルコト
ヲ惧レタルニ基キテ爲サレタルモノノ如シ、東京政府ハ實
際ニ於テ斯ル危險ヲ避ケントシツツアルヲ以テ英國政府ノ
政策ニシテスル危険ヲ生セシムルモノ無シ、然レトモ右聲
明ノ全体ノ措辭並ニ其ノ例ヘハ支那ニ對スル技術的及財政

的援助ヲ⁽¹⁾スルカ如キ點⁽²⁾ニ鑑⁽³⁾余ハ當國政府ノ立場ヲ明ニスル爲日本政府ニ對シ申入ア爲スア必要ト認メタリト述へ次テ Wedgwood 大佐(無所屬)弔リ米國政府ムヘ連絡ニ

關シ外相ノ答辯⁽⁴⁾促シ又 Sir Herbert Samuel(亞由)弔

リ在米日本大使ノ説明カ本日ノ新聞ニ現ハシ處ル事件

關シテハ何レ更メテ聲明ヲ爲サル意図ナリヤト質シ「サ

イセ」ハ此ノ上ノコトハ前記申入ノ結果ヲ待ツニ非サレ

ハ申シ得ス尤モ本件ニ關シ多分重ネテ陳述ヲ爲スコト適當

ナルヤモ計⁽⁵⁾サルコトベ「サミuel」氏ヘ詔ヘンタル通

ナリト答⁽⁶⁾ク更ニ「ウエツジウツム」ハ米國ムヘ粗謬ナクシ

テハ何等措置ヲ執ラサルモノト希⁽⁷⁾差支ナキヤト聞ヒ外相

ハ一切ノ措置ハト既⁽⁸⁾ニ發表ベクム⁽⁹⁾知⁽¹⁰⁾ヘ Knox 令將(保

守)ハ米國ヲ通スルヲ⁽¹¹⁾日本ニ直接友誼的陳述ヲ爲スコ

ト⁽¹²⁾適當ナハスヤ⁽¹³⁾遞⁽¹⁴⁾ Sir Cayzen(桂守)ハ九國條約國ム

打合⁽¹⁵⁾ヲ爲スノ意思有リヤト聞⁽¹⁶⁾「サバヤハ」ハ本日ハ前記

ノコト以外述フル⁽¹⁷⁾得サルカ余ノ唯今披露⁽¹⁸⁾タル措置ハ曰

本政府ニ對スル「ハシハシコ一' ロム⁽¹⁹⁾ハリケーハ⁽²⁰⁾」

ナリ、日本⁽²¹⁾ハ恐⁽²²⁾ク右⁽²³⁾カ適當ナル手段ナルコト⁽²⁴⁾ハ眞意ヤハ

ルルヤハ⁽²⁵⁾希⁽²⁶⁾ハ⁽²⁷⁾答辯⁽²⁸⁾シタリ

我當國政府カ在東京大使⁽²⁹⁾リノ公報トシテ發表セル外務省
「スボーグスマ」ハ「ストームヘ」體文稿參考迄リ
別⁽³⁰⁾電報ヘ

米、佛、韓府⁽³¹⁾轉電⁽³²⁾獨、伊、日、露⁽³³⁾郵送セ

(別 電)

ロハシハ 4月24日後發
本 省 4月25日後着

No.215

Owing to special position of Japan in her relations with China her views and attitude respecting matters that concern China may not agree in every point with those of foreign nations but it must be realised that Japan is called upon to exert the utmost effort in carrying out her mission and in fulfilling her special responsibilities in East Asia. Japan has been compelled to withdraw from the League of Nations because of their failure to agree in their opinions on fundamental principles of preserving peace in East Asia. Although Japan's

attitude towards China may at times differ from that of foreign countries such difference cannot be evaded owing to Japan's position and mission.

It goes without saying that Japan at all times is endeavouring to maintain and promote her friendly relations with foreign nations but at the same time we consider it only natural that to keep peace and order in East Asia we must even act alone on our own responsibility and it is our duty to perform it. At the same time there is no country but China which is in a position to share with Japan the responsibility for maintenance of peace in East Asia.

⁽²⁾ Accordingly unification of China preservation of her territorial integrity as well as restoration of order in that country are most ardently desired by Japan. History shows these can be attained through no other means than awakening and voluntary efforts of China herself.

We oppose therefore any attempt on the part of

China to avail herself of the influence of any other country in order to resist Japan. We also oppose any action taken by China calculated to play one Power against another. Any joint operations undertaken by foreign powers even in the name of technical or financial assistance at this particular moment after Manchurian and Shanghai incidents are bound to acquire political significance. Undertaking of such nature if carried through to the end must give rise to complications that might eventually necessitate discussion of problems like division of China which would be the greatest possible misfortune for China and at the same time would have most serious repercussion upon Japan and East Asia.

⁽³⁾ Japan therefore must object to such undertaking as a matter of principle although she will not find it necessary to interfere with any foreign country negotiating individually with China on questions of finance or trade as long as such negotiations benefit China and are not detrimental to peace in East Asia. However supplying

China with war aeroplanes building aerodromes in

China and detailing military instructors or military advisers to China or contracting a loan to provide funds for political uses would obviously tend to alienate friendly relations between Japan China and other countries and to disturb peace and order in Eastern Asia. Japan will oppose such projects.

Foregoing attitude of Japan should be clear from policies she has pursued in the past. But on account of the fact that positive moments for joint action in China by foreign powers under one pretext or another are reported to be on foot it was deemed not inappropriate to reiterate her policy at this time.

444 昭和9年4月24日 在米国斎藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

天羽非公式談話に關し我が方の對中國根本方針を示す外務大臣公式聲明の必要性」の意旨申

フシハムハ 4月24日後発

本省 4月25日後着

第111〇號(半急、極秘)

帝國ノ對支政策公表ニ對スル當國各方面ノ反響ハ累次ノ往電ノ依リ御承知ノ通ナルカ新聞記者ハ連日當館ニ蝋集シ帝國ノ眞意ヲ尋ヌルニ付本使ハ之ニ對シ累次ノ貴電特ニ貴電合第411五號ノ趣旨ニ依リ今回ノ聲明ハ滿洲問題以來屢繰返ヘサレタル東亞ニ於ケル我根本方針ヲ述ヘタルモノニ過キシテ決シテ何等新政策ヲ表明シタル譯ニアラス況ヤ折々傳ベハルカ如ク軍部ト外務省トノ間ニ意見相違アル次第ニアラス要ハ帝國ノ眞實ナル目的カ東亞ニ於ケル「ロー、ハンム、オーダー」(平和ナル文字ヲ餘り繰返スハ面白カウス寧ロ法律秩序ノ觀念ヲ強調スルコトヲ認識スルニ於テハ容易ニ總テヲア得シ得ヘキコトヲ説明シ居レル處右ハ此ノ「インタービュー」ノ常トシテ正確充分ヲ期シ難キモ各種ノ新聞ニ掲載セラレ其ノ後東京ヨリノ追報記事ト相待チ餘程當初ノ誤解ニ基ク衝動ヲ緩和シ居ル模様ナリ尙國務省側ハ當初ヨリ大体沈黙ヲ守リ批評釜敷キ言明ヲ爲シ

居ラサルモ諸方面ヨリ入手セル報道ヲ綜合スル「門戶開放主義」ノ維持ニ關スル關心ニ終始スルモノノ如ク(往電第二14號末段參照)而シテ本件我方ヨリ正式ニ何等申出無キ

限り依然靜觀的態度ヲ持スヘク折角軌道ニ戾ハントシツツアル日米關係ニ新タニ紛議ノ種ヲ播クヲ避クル爲成ルベク

ハ右正式申出無キコトヲ希望シ居ル模様ナリシカ如キモ今

日國務次官ノ求ニテ往訪シタル經緯ハ往電第一11九號ノ如

ク尙新聞記者等モ斷(片)的ナル日本ヨリノ報道ニテハ日本ノ眞意ヲ正解シ難シト爲シ居ル向多キニ付此ノ際閣下ニ於テ演説又ハ「ステートメント」ヘ形式ニテ帝國ノ根本對支方針ヲ天下ニ聲明セラルルコト時宜ニ適スルニアラスヤト思考セラル世界ノ輿論カ相當沸立チ居リ我眞意ヲ知ラント努メ居ル此ノ際我ニ於テ内ニ顧ミテ疚シキコト無キ以上右御聲明ニ依リ雨降リテ地堅マルノ實ヲ擧ケ帝國ノ公明正大ナル態度ヲ世界ニ披瀝シシテ了解セシムルニ絶好ノ機會ト存ス

英ヘ轉電セリ、在米各領事([ホノルル]ア含ム)へ暗送セリ
英ヨリ在歐各大使、壽府へ轉報アリ度)

~~~~~

四 中国をめぐる列国との関係

445 昭和9年4月26日 広田外務大臣より  
在米国斎藤大使、在英國松平大使、在中國國城内臨時代理公使他宛(電報)

天羽非公式談話に關しグルー在本邦米国大使  
に我が方の眞意説明について

本省 4月26日発

合第四五九號

廿五日「グルー」大使他用ヲ以テ來訪シタルニ付進ンテ我方ノ態度等説明方可然ト認メ本大臣ヨリ口ヲ切り先般新聞紙ニ傳ベラレタル外務省員非公式發表ナルモノハ實ハ自分シテハ發表ノ意思ナカリシモノニテ何等正式ノ聲明ニハ非スト述ヘタル上日本政府トシテハ九國條約ヲ否認スルモノニ非ス從テ門戶開放、機會均等ノ主義ヲ尊重スルコト勿論ニテ支那ニ對スル列國ノ商賣ハ之カ bona fide ノモノナル限り何等反対スヘキ筋合ニ非サルノミナラス寧ロ歡迎スヘキモノナリ唯タ最近種々ノ方面ニ於テ何等カ他意ヲ懷キツツ支那ニ對シ物品ノ賣込又ハ金錢ノ貸與等ノ策動ヲナスモノアル模様ナル處斯ノ如キハ東亞ノ平和及秩序ノ維持ニ重大ナル影響ヲ及ホスマノト云フヘク日支ノ地理的關係ニ

モ顧ミ日本カ此ノ種行動ニ無關心タリ得サルハ當然ノコトナリトノ趣旨ヲ説明シタル處米國大使ハ右御説明ハ良ク諒解セリト答ヘタリ

本電宛先 在英大使、在米大使、在支公使、在滿大使、北平、天津、青島、濟南、福州、廈門、廣東、(南京カ)廈門、香港、漢口

英ヨリ在歐各大公使及壽府ヘ、米ヨリ紐育、市俄古、桑港、加奈陀、玖馬、墨及伯ヘ轉電アリ度又伯ヨリ在南米各公使ニ暗送アリ度

~~~~~

446 昭和9年4月26日 広田外務大臣より
在米國齋藤大使、在英國松平大使、在中國堀内臨時代理公使他死(電報)

天羽非公式談話に関する在本邦英國大使照会

および我が方回答振りについて

本省 4月26日発

一、二十五日「リンドレー」大使來訪先ツ本國政府ノ訓電ヲ朗讀セルカ其ノ要旨左ノ通

合第四六〇號

二、「サイモン」外相ハ議會ニ於ケル質疑ニ答ヘ「本件聲

(四) 「サイモン」外相ハ議會ニ於ケル質疑ニ答ヘ「本件聲

明ハ列國ノ支那ニ於ケル或種ノ行動カ東洋平和若クハ

日支國交乃至支那ノ保全ニ有害ナルヘシトノ不安ニ基

キ發表セラレタルモノノ如キ處英國ノ政策ヨリスカル

不安ノ生スヘキ害無ク英國トシテハ實際右ノ如キ有害

ナル措置ヲ避ケツツアリ」ト述ヘタルカ本週中又々同

様ノ質疑アルヘキニ付日本政府ニ對シ最モ友好的ナル

精神ヲ以テ本件聲明ニ付照會スヘシ

三、尙同大使ハ右訓令ノ要點ハ(一)九箇國條約(第一條及第七

條)ニ依リ日本ハ東洋平和、支那保全ニ有害ナリト思考ス

ル他ノ締約國ノ措置ニ付注意ヲ喚起スル權利アルニ拘ラ

ス何故此種ノ聲明ヲ出セラレタルヤ(二)何カ有害ナル措置ナ

リヤニ付日本一國ノミカ判斷者タラントスルニ於テハ右

ハ九箇國條約ノ平等權以上ノ何モノカラ主張セラルルコ

トトナルヘシト云フコトナリ但シ英國政府ハ決シテ日本

カ同條約ヲ犯シタリト云ヒテ非ヲ鳴ラシ居ル次第ニハアラスト附言シタリ

三、仍テ本大臣ハ御申出ノ次第ハ篤ト研究ノ上必要アラハ御返事致スヘシト前置シ且本件聲明ナルモノカ何分正式ノ

(一)今回ノ聲明ハ其出所 authoritative ト推定セラレ英國

ノ默視スル能ハサル性質ノモノナリ

(二)九箇國條約ハ締約各國ノ equality of rights ヲ規定シ居レリ英國ハ右共通ノ權利ハ之ヲ要求セサルヲ得ス尤モ特別ノ取極例ヘハ「コンソルシマム」協定ノ如キニヨリ彼等ノ權利カ制限セラレタルモノ又ハ日本ノミノ

special rights トシテ他ノ列國ニ依リ認メラレタルモノニ關シテハ此限ニアラス

(三)本件聲明ハ支那ノ保全及平和ニ對スル危險ヲ懸念スル見地ヨリ發セラレタルモノト解セラレ右危險防止ハ英

國ノ政策ノ目的トスル所ナルカ如何ナル措置カ有害ナリヤニ付日本一國ノミカ判斷ヲ下シ得ヘシトノ見解ナ

ラハ英國トシテ之ニ同意スル所ナルカ如何ナル措置カ有害ナリヤニ付日本一國ノミカ判斷ヲ下シ得ヘシトノ見解ナ

及第七條ニ依リ日本ハ其安全ヲ害スト思考スル他ノ締約國ノ措置ニ付其注意ヲ喚起スル權利アリ此權利ハ日本ニ安全保障ヲ與フルモノナルニ鑑ミ本件聲明ハ列國ノ對支共通權利(common rights)ヲ否認シ若クハ日本

自ラ條約上ノ義務ヲ侵犯セントスルモノニアラサル趣旨ト思考ス

スペク又九箇國條約ニ關シ締約國共通ノ権利以上ノ權利ハ同條約ヲ破棄セサル限り要求シ難カルヘシト答ヘタルニ

「リ」ハ首肯シタリ

(二) 次ニ本大臣ハ門戸開放機會均等ノ原則ハ日本ノ尊重スルトコロニシテ列國ノ Bona fide ノ對支通商ニハ日本トシテ何等異存ナク寧口日本ハ今尙支那ノ「ボイコット」ノ爲メ列國ト均等ナル機會ヲ與ヘラレ居ラサル實情ナルニ付日本コソ列國以上ニ均等、開放ノ原則ノ實施ヲ要求スルモノナリ又對支投資ニ付テハ借款團ノ存スルニ拘ラス支那ハ之ヲ顧ミサル次第ナルカ元來目下ノ支那政情ニ鑑ミ之ニ投資スルハ「グレイ」外相カ嘗テ言ヒタル通り單ナル捨金ニ終ルノミナラス支那ノ爲メ有害ナル結果ヲ生スベシト思考ス(大使ハ英國ハ支那ニ對シ決シテ投資セサルヘシト附言セリ)尙近來聯盟ヲ代表スルモノトカ商賣ヲ看板ニスル連中支那ニ入り込ミ何等カノ異圖○ノ下ニ頻ニ策動シ居ル模様ナル處日本トシテハ之ヲ座視シ得サルコト當然ナリ將又日支間ノ地理的關係ニモ顧ミ支那ニ火災起ラハ隣家タル日

施ヲ要求スルモノナリ又對支投資ニ付テハ借款團ノ存スルニ拘ラス支那ハ之ヲ顧ミサル次第ナルカ元來目下ノ支那政情ニ鑑ミ之ニ投資スルハ「ボイコット」ノ爲メ列國ト均等ナル機會ヲ與ヘラレ居ラサル實情ナルニ付日本コソ列國以上ニ均等、開放ノ原則ノ實施ヲ要求スルモノナリ又對支投資ニ付テハ借款團ノ存スルニ拘ラス支那ハ之ヲ顧ミサル次第ナルカ元來目下ノ支那政情ニ鑑ミ之ニ投資スルハ「ボイコット」ノ爲メ列國ト均等ナル機會ヲ與ヘラレ居ラサル實情ナルニ付日本コソ列國以上ニ均等、開放ノ原則ノ實

本ハ遠方ノ者ヨリモ重大ナル不安ヲ抱クコト寧口道理ナルニアラスヤト述フ
 (三) 「リ」ハ貴大臣ノ御説明ニ依リ大体ノ事情ハ良ク了解シタリ右早速本國ニ電報スヘシト述ヘ
 本大臣ハ大体御申入ノ諸點ニ對シテハ御答ヘヲ盡クシタル如ク感セラルモ尙熟考ノ上其ノ必要アリト認ムル點アラハ改メテ回答致スヘシト内話シ置キタリ
 本電宛先 在英大使、在米大使、在支公使、在滿大使、北平、天津、青島、濟南、南京、福州、廈門、廣東、香港、漢口、
 英ヨリ在歐各大公使及壽府ヘ、米ヨリ紐育、市俄古、桑港、加奈陀、玖瑪、墨及伯ヘ轉電アリ度又伯ヨリ在南米各公使ニ暗送アリ度

447 昭和9年4月26日 広田外務大臣より
 在英國松平大使、在米國齋藤大使、在中國堀内臨時代理公使他宛(電報)
 天羽非公式談話に関する我が方応答要領英訳

文を在本邦米英両国大使に交付にて
 ~~~~~

別電 四月二十六日発広田外務大臣より在英國松平大使、在米國齋藤大使、在中国堀内臨時代理公使他宛合第四六六号  
 右応答要領英訳文

合第四五六號  
 往電合第四三五號(關シ  
 别電ト共ニ英ヨリ土ヲ除ク在歐各大使及壽府ヘ轉電アリ度  
 别電ト共ニ米ヨリ紐育ニ轉電アリ度

本省 4月26日発  
 (別電)

本省 4月26日発

合第四六六號

二十六日「グルー」大使來訪シ十七日非公式發表ノ譯文ノ入手方本國政府ヨリ電報接到セル旨ヲ述ヘタルニ付本大臣ハ右非公式發表ナルモノハ昨日モ御詰シタル通り但等正式ノ聲明ニ非ルノミナラス新聞記者ノ種々ナル質問ニ對シ係官ニ於テ一々應答シタルモノノ新聞等ニ掲載サレタルニ過キス從テ譯文等ノアリ様ナキ次第ナリ然ル(1)十一日原ノ新聞ニ出テタル係官ノ應答(往電合第四三五號參照)ハ大体帝國政府ノ立場ヲ說明シ居レリト告ケ尙同大使ノ希望ニ基キ右應答要領ノ譯文トシテ別電合第四六六號ヲ交付シ置キタリ尙英國大使館ニ對シテモ敍上ノ趣旨説明ノ上右別電ヲ交付シ且英米双方ニ對シ別電ノ内容ハ「クウーム」ヤハノ差支ナキ並附言セシメ置キタリ

Japan has not infringed upon China's independence or interests, nor has she the slightest intention to do so. In fact, she sincerely desires the preservation of territorial integrity of China and her unification and prosperity. These ends should, fundamentally speaking, be attained by China herself through herself-awakening and voluntary efforts.

Japan has no intention to trespass upon the rights of other Powers in China. Their bona-fide financial and commercial activities will redound to the benefit of China which is quite welcome to Japan. She, of course, subscribes to the Principles of the Open Door and Equal

Opportunity in China. She is observing scrupulously all existing treaties and agreements concerning that country.

However, Japan cannot remain indifferent to anyone's taking action under any pretext, which is prejudicial to the maintenance of law and order in East Asia for which she, if only in view of her geographic position, has the most vital concern. Consequently, she cannot afford to have questions of China exploited by any third party for the execution of a selfish policy which does not take into consideration the above circumstances.

448 昭和9年4月26日 在中國堀内臨時代理公使より  
広田外務大臣宛(電報)

大日本公武談話題くに中國側対応なむるに  
日ソ戦争勃発の場合の回國態度に關するロイ  
ター通信観測口ひ

上海 4月26日前發  
本省 4月26日前着

アル行動ト解スくシ而シテ之ニ對シ日本ハ支那ヲシテ高價ナル支拂ヲ爲サシム可シト信スくキ理由アリ露西亞カ支那ニ對シ物資的援助ヲ與ヘントスルモ地理的條件ノ爲之ヲ爲スノ途無カル可シ  
更ニ南京政府ハ剿共ノ爲年々數百萬弗ヲ費シツツアリテ之ノツツテ手一杯ナリ露西亞カ共產主義ノ脅威ノ根據地タルコト明カナル今日極東ノ霸權獲得ノ爲ノ戰爭ニ於テ南京政府カ露西亞ヲ援助スヘシト信スルカ如キハ無理ナル想像ナリト權威者ハ言ヒ居レリ<sup>(1)</sup>  
南京、北平、滿く轉電セリ

449 昭和9年4月26日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

天羽非公式談話の趣旨を汪兆銘に説明および  
軍事物資供給など列国による对中国援助の現  
状にても個人弁明に口ひ

南京 発  
本省 4月26日後着

第三五二號

十七日ノ我非公式聲明ニ對スル南京ノ一般空氣就中日蘇戰爭ノ危險及之ニ對スル支那ノ態度ニ關シ廿四日南京發路透ハ大要左ノ如ク報シ居レリ  
南京ハ十七日ノ日本ノ非公式聲明ノ爲依然昂奮ヲ續ケ動搖シ居ソリ外交部及政府ノ指導者ハ日々非公式聲明ヲ發シ又東京其他ヨリノ報道ヲ打消シ居レリ一般リ show-down ハル可シト信セラレ居リ消息通ハ其形式並之ニ對シ支那政府カ採ル可キ態度如何ヲ突止メシシツツアリ  
南京ニ於テハ日蘇戰爭ハ不可避ナリト確信セラレ居レリ一度戰爭ノ勃發ハ支那ニ取り災禍ニシテ孰レノ國カ勝利ヲ得ルトモ支那ハ災害ヲ蒙ル可シト一般ニ認メラレ居レリ一度戰爭ヲ經驗スルニ於テハ日本ハ北支ヲ占領シ之ヲ滿洲及蒙古ニ對スル物資及勞働者ノ供給地トスベク貿易ハ攬亂セラル那カ日本ニ味方スヘシト考フル丈ニテモ馬鹿ラシキカ戰爭ヲ豫見スル連中ハ支那ノ露西亞援助モ同様ニ疑問ナリト述へ居レリ其ノ理由トシテ舉タル所數多アリ支那ノ露西亞ニ對スル如何ナル友誼的「ゼスチユウア」モ日本ハ之ヲ敵意

貴大臣發支宛電報第一三一號ニ關シ

二十四日他用モアリ汪院長ト會見ノ處

「先ツ汪ヨリ外務省非公式聲明發表ニ關シテハ十九日有吉公使ノ沈司長ヘノ御説明(公使發貴大臣宛電報第三一三號)ニ依リ大体承知シ居ルモ自分ニ於テ懸念ノ次第ヲ公使ヨリ廣田大臣ニモ御傳達ノ結果何等カ御回示アリタリヤト得意氣ニ切出シタルニ付本官ヨリ別段來示ノ次第ハナキモ偶然本官赴滬ノ際公使ヨリモ段々詰合アリシニ付此ノ機會ニ卒直ニ我方立場ヲ説明シタルシ前提シ貴大臣發本官宛電報第三六號及貴大臣發公使宛電報第一〇九號殊ニ貴大臣發合第三七四號等ノ御趣旨ニ基キ説明シタル上問題トナリ居ル十七日ノ聲明モ虛心坦懐御一讀アルニ於テハ前述諸方針ノ要領ヲ述ヘ居ルニ過キナルヲ了解スベシ各國新聞等カ大分問題ニシ居ル模様ナルモ右ハ誤解ニ過キス二十日外務省係官ヨリ外國新聞記者ニ對シ此ノ點ヲ指摘シ説明ヲ與ヘタル處誤解モ漸次冰解シツツアリトテ貴電合第四三五號ノ趣旨ヲモ説明シタルニ

ルカ何シロ二十一日ノ壽府發「ロイター」中ニアル横山

總領事説明二十一日華府U、Pニ與ヘタル齋藤大使ノ會見等ハ餘リニ簡單ナル爲日本ノ眞意ヲ了解スルノ途ナク

一方各方面ヨリモ餘程ノ激論出テ現ニ二十二日西南領袖ヨリ自分宛詰問電報迄送り來リ（往電第四〇一號參照）又南京政府部内ニ於テモ自分等ノ對日政策ハ賣國政策ナリ

ト極論シ居ル向アリ何トカ日支關係ノ好轉ヲ計ラント努力シ居ル自分トシテハ實ノ所非常ニ困難ナル立場ニ置カ

レ居ル譯ナリ折角好轉ノ徵アル兩國關係ヲ攬亂スルモ殘念ナリト思ヒ外交部非公式聲明モ原案ヲ餘程緩和シ發表

セル次第ニテ（往電第三七二號）自分乍ラ少シ生溫過キルトモ思ヒ居ル處果然右ハ賣國的聲明ナリトノ意見擡頭シ來リ居レリ御話シノ二十日ノ外務省係官説明（貴電合第四三五號）ナルモノヲ頂戴ノ上貴官ト會談ノ結果得タリトシテ政府部内ニ披露シタシト述ヘタルニ付

三、本官ヨリ右趣旨ハ二十一日上海ノ「デイリー、ニュース」ニモ「ロイター」通信トシテ發表セラレ居ル譯ナレハ御参照ノ上無關係ニ御使用方然ルヘシト應酬ノ上本件ニ關シ又候新聞カ反日的毒筆ヲ弄スル虞アレハ此ノ上共取締ノ徹底ヲ期シ大局ヲ誤ラサル様充分指導セラレタシト申

入レタル處

(4) 汪ハ此ノ機會ニ外國援助ニ關スル支那ノ眞意ヲ申上ケ日本側ノ誤解ヲ解キ度グ貴官ヨリモ廣田大臣及有吉公使ニ詳シク御傳達アリ度シトテ左ノ通辯明セリ

十七日ノ外務省非公式聲明中ニ軍用飛行機買入レ飛行場設置軍事教官招聘及政治借款カ例示セラレタル上外國ノ對支共同援助ヲ難詰セラレ居ル處

(1) 成程飛行機ノミナラス武器一般ヲ外國ヨリ求メ居ルハ事實ナルモ右ハ現在ノ日支關係上已ムヲ得サルニ出テタルモノニテ兩國關係好轉ノ曉ニハ專ラ日本ヨリノ輸入ニ待ツコト支那ニトリテモ有利ナリ先般南昌ニ於テ寧海ノ話出テ此ノ種ノ優秀軍艦又ハ武器ヲ日本ヨリ求メ度キモノナリト語リタル程ニテ元來支那ハ他國ト異ナリ假想敵等アルコト無ク言ハハ支那國防ハ公開セラレ居リ共產軍撲滅ノ爲兵ヲ用ヒ居ルニ過キス唯江西ノ共匪討伐ニ止マラス北方邊境一帶ヨリスル思想的侵入具体的ニ言ヘハ貴官ニ先般御話セル通り（往電第一一號赤露ノ思想的來寇ヲ防クノ要アリ飛行場設置モ實ハ此ノ範圍ヲ出テサルモノナリ

(2) 又軍事教官及顧問ノ招聘ニ付テハ蔣介石ニ於テモ熟考ノ結果獨逸人ニ落付キタル譯ニテ獨逸ハ元來軍事教育進歩發達シ居ル國ナルノミナラス日獨關係ノ現狀及獨逸ノ東洋ニ於ケル利害關係比較的少キ點等ニモ顧ミ日

聯盟ニ依ル列國ノ共同援助計畫ニ付テハ未タ聞キタルコト無ク假ニ此ノ種企アリトスルモ日本ヲ除外シテハ何事モ出來得サルコトヲ自分ハ萬々承知シ居レリト述ヘ

本ヲ刺戟スルコト最モ少キ國ナリト思考セラル「ゼーグト」昨年來支ノ際蔣ヨリ此ノ點ヲ話シタリトサヘ聞キ及ヒ居レリ日支ノ關係カ好轉スレハ日本ヨリ之等顧問ヲ迎フルコト最モ捷徑ナルハ軍事關係者ノ等シク主張シ居ル處ニシテ數年前廣東國民政府時代自分ヨリ貴官ニ對シ日本軍事顧問派遣方申出タルニ依リテモ御想像ニ難カラサルヘシ

(3) 政治借款ハ自分カ行政院長就任以來一ツモ無ク唯武器等購入ノ際代金支拂フ行フコトアルニ過キス棉麥借款トテ事實上其ノ性質買入金ノ延拂ニ過キス然モ其ノ數量ヲ激減セシメ丁度本二十四日孔部長ニ對シ右手取金ハ農業振興道路建設等ニ使用スルニ決定シ居ル次第ヲ早ク公表方督促シ置キタル程ナリ

(2) 又聯盟トノ技術合作ニ關シテ事實「ライヒマン」等ヨリ専門的技術報告ヲ聞キ居ルノミニテ策動等ハアラス

450 昭和9年4月26日 在中國堀内臨時代理公使より

広田外務大臣宛(電報)

天羽非公式談話の影響により日中關係改善は困難となつたとのパドウ国民政府顧問内話について

上海 4月26日後発  
本省 4月26日後着

<sup>(1)</sup> 第三五五號

「パドー」他用ヲ以テ本野ヲ來訪外務省「ステートメント」

二付談話シタルカ其ノ要點左ノ如シ

一、外務省ハ今回一ツノ「ボンブ」ヲ投ケタル感アリ支那側ハ大ニ驅キ居レリ日支關係ハ折角暗黙裡ニ好轉シツツアリ從來ノ懸案モ一ツ宛片ヅカル傾向ニアリタルモ之テ解決モ困難ニナリ汪、蔣ノ立場モ甚々具合惡クナリ來レリ

二、支那爲政者中滿洲問題ハ之ヲ諦メサルヘカラスト自覺シ居ルモノアルモ敢テ此ノ政策ヲ實現シ得サルハ日本從來ノ遣方ハ支那側ノ讓歩ニ乘シ更ニ一步ヲ進メルニアリテ（滿洲事件中度々之ヲ經驗シ居レリ）滿洲國ニ關シ讓歩スルハ and what next? レ問フ心地アレハナリ依テ妥協ハ困難ナリ自分ハ支那側ニ對シ一通リノ妥協ヲ進メ居ルモ斯ク言ハルレハ返答ノ仕様無シ弱國カ何時モ最モ神經過敏ナルコトハ歐洲ノ事態ヲ見テモ明カナリ夫れ故ニ日本トシテハ之ヲ考慮シ成ルヘク支那ヲ驅ガセヌ様ニスルコト有利ナラスヤ今回ノ聲明ノ如キハ誠ニ遺憾ナリ

三、聲明ノ對象ハ支那ナルヘキモ其ノ反響ハ諸外國ニモ強ク列國トシテハ實ハ態度ヲ明カニセサルコトカ其ノ最モ欲スル處ナルニ此ノ聲明アル爲議會等ノ質問モアリ支那側ノ質問モアリ態度ヲ明ニセサルヲ得サル立場ニ置カレタリ

四、南京政府ハ在外使臣ニ對シテ駐劄國政府ニ對シ「デマルシユ」ヲ爲スヘキ訓令ヲ發シタリヤ否ヤハ自分ハ承知セサルモ誠ニアリ得ヘキ當然ノコトナリ

五、<sup>(2)</sup> 今回ノ聲明ハ九國條約ノlimitヲ脫スル政策ヲ含ムモノト思考ス故ニ九國條約ヲ引合ニ出スコト必シモ不當ナラス

六、本件内容自体（日本ノ極東ニ於ケル地位及對支關心）ニ關シテ自分ハ日本ノ立場及主張ヲ好ク知リ居レリ聯盟ノ技術援助ニ關シテモ實ハ自分ハ支那側ニ對シ日本ニ相談スルコト緊要ナリトノ意見ヲ述ヘタルコトアリ  
セ、結局斯ノ如キ爆彈ヲ投ケ乍ラ日支協力ノ助長關係ノ融和ヲ望ムハ無理ナリコンナコトヲ支那及外國ニ知ラサント欲セハ幾何テモモット巧ナ方法ハアリシモノト思ハル然モ壽府ニ於テ横山總領事カ印度支那、比律賓等ヲ引合ニ

出シタルコトハ不思議ニテ米國ヲ興奮セシムル最モ善キ方法ナリ云々

ベ、今回ノ聲明ハ一九三五年ノ準備工作ト諒解スルカ日本ハ一方ニ於テ斯ノ如キ强硬ナル態度ニ出テ他方「パリティ」ノ問題ヲ持シテ「バーゲン」ノ材料ヲ作り得ルヤニ思ハル

尙其ノ際本野ヨリ「パ」ニ對シ累次貴電ノ趣旨ニ依リ我方ノ趣旨ヲ充分徹底セシメ置キタル趣ナリ  
北平、南京、青島、天津、漢口、廣東、香港ヘ轉電セリ  
上海ヘ轉報セリ

451 昭和9年4月26日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛（電報）

天羽非公式談話に関する我が方応答要領に対し中  
国外交部スポーツマン新聞談話発表について

南 京 4月26日後発

本 省 4月27日前着

第四〇九號  
往電第四〇〇號ニ關シ

其ノ特殊勢力ニ藉口シ經濟上ノ獨占又ハ他國排除ヲ爲スカ

如キコトヲ防止スルニ在リ然ルニ今次ノ聲明ニ依レハ日本ハ明カニ支那ト他國ノ合法關係ヲ排斥セントスルモノナレ

ハ之ニ依リ起ルヘキ門戸開放主義ノ動搖ニ付テハ日本ニ於テ其ノ責ヲ負フヘキモノナリ

要スルニ現在支那ハ對内的ニハ剿匪及建設工作ニ努力スルモ之カ爲何等他國ノ干與ヲ受ケス又對外的ニハ關係列國ト協調シ國際平和ノ維持並ニ聯盟規約及九國條約等ノ擁護ニ終始スルモノナリ

支ヘ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

452 昭和9年4月26日 在ジュネーヴ横山國際會議事務局長  
代理兼總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

國際連盟事務局内において天羽非公式談話を利用し我が方を非難攻撃する勢力の動向について

ジュネーヴ 4月26日後発  
本 省 4月27日前着

明及會見ヲ爲シ以テ我方立場ノ徹底ヲ期シタル次第ナルカ同日午前中事務局政治部長及情報部長代理ニ對シ其ノ趣旨ヲ説明シ置ケリ(事務總長ハ目下不在ニ付歸壽ヲ待チテ面會ノ豫定)

三、尙二十四日諜報者ノ語ル所ニ依レハ事務局内反日分子ハ波蘭ノ前例ニ倣ヒ本年滿期トナル支那理事ノ再選ヲ畫策シ今後モ引續キ理事會ニ於テ主要各國ニ對シ直接支那側意見發表ノ機會ヲ確保セシムルコト聯盟ノ對支援助實行及世界性保持ノ見地ヨリ必要ナリトノ意見ヲ漏ラシ居ル趣ナリ

英、佛、米ヘ轉電シ英佛ヲ除ク在歐各大公使ヘ暗送セリ

453 昭和9年4月27日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

天羽非公式談話による日ソ關係険悪化の觀測再燃につき在中国ソ連邦大使懸念表明について

南 京 4月27日後発  
本 省 4月27日後着

#### 第八九號

「十七日ノ帝國對支方針非公式發表ハ聯盟事務局内ノ反日の分子ニ相當ノ衝動ヲ與ヘタルモノノ如ク現ニ諜報者ノ内報ニ依ルモ十八日某高官ハ新聞記者溜ニ來リ大要左ノ通語レル由ナリ

「今回ノ日本ノ宣言ハ往年ノ二十一ヶ條要求ニ匹敵ス聯盟ハ滿洲國ヲ承認セス又支那ノ統一再建ノ爲ニ資本及技術家ヲ供給セントス「ライヒマン」ハ右ニ關スル具體案ヲ携ヘ歸壽ノ途上ニアリ此ノ形勢ニ鑑ミ日本ハ急遽其ノ牙ヲ現ハシタルナリ日本ノ輸出業者ハ支那ヲ獨占セントシ陸海軍ハ之ヲ完全ニ支配セント欲シ奉天攻擊ノ際大實業家ト軍部トノ間ニ存在セル意見ノ不一致ハ右共通ノ發展目的ニ依リ消滅セリ從テ日本ノ聲明ハ壽府ヨリモ華府ヲ目的トシ海軍會議前太平洋ノ二三ノ要塞ニテハ不充分ナルコトノ警告ヲ米國ニ與ヘタルモノト見得ヘク日本ハ支那ヲ「コントロール」セントスルモノナリ」云々

三、他方支那側ヨリハ往電第八五號「コンミニュニケ」ヲ發表旁種々ノ臆說ヲ生スル虞極メテ濃厚ナリシヲ以テ往電第八四號新聞記者トノ會談及往電第八七號記者團ニ對シ聲

#### 二十六日蘇聯大使「ボゴモロフ」ト會見ノ際<sup>(1)</sup>

一、先方ヨリ聲明書發表ニ付伺ヒ度シト前置シ對支國際合作ニ關スル「タス」電報(公使發大臣宛電報第二二一號)ニ付テハ「チエルノフ」ヨリ報告アリ支那側ニ於ケル所謂銀公司ノ設立計畫ヲ喰付ケ莫斯科發トシテ上海ニテ報道セルモノニテ日本ハ其ノ際上海及東京ニテ銀公司設立等ノ國際合作ニ反對セサルカノ如キ打消ヲ發表シタルカ今回ノ聲明ハ矢張リ日本ノ態度ニ關スル「チエルノフ」ノ報道カ誤ラサリシヲ證明スルモノナリ

右聲明ニ依リ直接日蘇關係ニハ影響無カル可キモ既ニ支那側ト相當深キ關係アル諸國トノ關係ニハ多少ノ暗影ヲ投スルモノト觀察セラルトテ聲明ノ面白カラサル次第ヲ述ヘ公式ナラサリシコトカ切メテモノ氣休メナリト迄言ヘリ依テ本官ヨリ我方ノ確乎タル態度ヲ一々説明シ公式、非公式ニ關係無ク右聲明ハ我方態度ヲ「エラシデー」セルモノニ外ナラサル所以ヲ高調シタルモ「ボ」ハ仲々納得セス門戸開放ヲ主張シ乍ラ日本ノミ獨り占メセントスルカ如キ態度ヲ採ルハ矛盾シ居ルノミナラス對支國際援助ニ抗議シ得ル根據ヲ解シ難シト繰返シタルニ付

本官ヨリ更ニ我方ノ嚴然タル態度ヲ敷衍説明シ日本ハ徒ニ他國ノ援助ヲ排斥スルカ如キ「チャーリッシュ」ナ根性ヲ有スルモノニ非ス支那ノ誠意ヨリ出テサル此ノ種合

性作カ支那ノ混亂ヲ來スハ支那ノ爲ナラサルト同時ニ接壤國日本トシテノ關心事タルハ當然ナリト述ヘタル處

「ボ」ハ貴方立場ハ自分モ能ク了解シ居レリト答ヘ

二、更ニ打明ケテ申上度ハ本件聲明ニ依リ日蘇關係愈險惡化セムトノ觀測當方面ニ再燃セル點ナリ外支人ヨリ日蘇戰

爭ニ付意見ヲ問ハル毎ニ自分ハ蘇國ハ國內開發ニ専念シ居リ平和ヲ以テ外交ノ根本トシ居ルモ日本ニシテ侵略來ラハ何時ニテモ相手トナルヘク「ボ」ノ此ノ點ニ關スル説明ノミニ印象付ケラレ居ル外國人例へハ「トラウトマン」及支那人ノ數少カラサルハ本官常ニ氣付キ居レリ)

又日本ニシテ平和ノ爲一步ヲ乗出セハ蘇聯ハ二歩ヲ以テ之ニ酬ユルノ覺悟アレハ和戰トモニ日本ノ出方一ツニアリト言フヘシト答ヘ居ル處今次ノ聲明ヲ種トシ支那要人

中ニ日本ノ次ノ「プロボケーション」ハ蘇聯ニ對シ向ケラルヘシト述ヘ居ルモノアルハ注意ニ値ス此ノ形勢ヨリスルモ大局上一日モ早ク北鐵買收問題ヲ解決スルコト得

### し我が方を非難する宣言書発表について

ジュネーブ 4月27日後発

本省 4月28日前着

#### 第九一號

支那聯盟事務局長ハ二十五日午後當地記者團ヲ茶ニ招キ左記要旨ノ宣言書ヲ朗讀配布セルカ別段質問應答等行ハサリシ趣ナリ

日本側野心ノ範圍ハ滿洲、熱河、北支ニ止マラス支那ノ國家的生命及其ノ聯盟及列國トノ關係ニ對スル「ヴィト」

ノ權利ヲモ含ムモノニシテ結局例ノ田中上奏文ノ筋書ニ外

ナラス如何ニ支那カ善隣關係ヲ重要視スルモ支那ノミカ損失ヲ蒙ルコトヲ忍ヒ得ス況ヤ他國領土ノ一部ヲ占領シ之ヲ

切離サンツヌルカ如キハ到底相互的好意乃至了解ト認ムルヲ得ス、日本壽府代表者ハ支那ニ平和及統一ヲ齋ス爲云々

ト述ヘタル處滿洲事變以來ノ事態ハ全ク之ニ反セリ支那政

府カ聯盟及列國ヨリ技術的協力ヲ得ントシタルハ既ニ成功ノ途ニ在ル諸事業ヲ更ニ發展セシムルニ在リ客年二月二十

四日ノ臨時總會採擇ノ報告ト合致ス  
右協力ノ結果支那ノ購買力増加シ他國ノ物資ヲ吸收スルコ

### 策ナリト信セラルト述ヘ

三、支那人ハ何事ニ關シテモ信義ノ觀念ニ乏シク實ハ不可侵

條約延ヒテハ通商協定迄モ一氣ニ片付ケ得ル空氣アリシ

ニ拘ラス汪院長ノ如キハサツパリ煮切ラス自分等ハ政治モ「ビヂネスライク」ニ取り運フ方針ナルニ拘ラス支那

テハ通商協定ノ如キサヘ政治ト關係付ケラル實狀ナレハ愛想ヲ着カシ居レリトテ往電第二八一號ト同趣旨ヲ述

ヘタリ四、又「ボ」ハ蘇聯内ノ輿論ハ大體聯盟加入ニ反對ナルモ最近ノ蘇聯外交政策ハ極メテ實際のトナリタレハ右空氣ニ拘ラス平和政策遂行上ノ都合ヨリ聯盟加入モ實現ノ可能

性鮮カラスト思考スト語リ居タリ

支、北平ニ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ

454 昭和9年4月27日 在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼總領事より 広田外務大臣宛(電報)

### 中国側連盟事務局長より天羽非公式談話に關

トトナラハ經濟危機ノ解決ニ止マラス世界平和ニ對スル一大貢獻トナルヘシ日本ハ一方支那ヲ保護領視スルモノニ非

スト言ヒツツ他方平和維持ヲ害スヘキ外國ノ援助ニ反對スト宣言セルカ平和ニ害アリヤ否ヤハ日本カ單獨ニ判定セン

トスルモノニシテ畢竟支那ノ主權ト兩立セス且ツ既存條約殊ニ華府條約<sup>第十一條<sub>(タ)</sub></sup>四項目ノ凡テニ對スル侵害トナルヘシ要スルニ日本今同ノ説明ハ聯盟規約ヲ侵犯セサリシトカ

滿洲國建設ハ民衆ノ要望ニ應シタルモノナリト言ヘルト同様ノモノナリ云々

455 昭和9年4月28日 在南京須磨總領事より 広田外務大臣宛(電報)

立法院會議において天羽非公式談話問題対日  
措置につき列國への共同歩調要請を検討との  
情報について

南京 4月28日後発  
本省 4月28日後着

第四一四號

往電第四〇九號ニ關シ



to be duly considerate of the rights, the obligations and the legitimate interests of other countries, and it expects on the part of other governments due consideration of the rights, the obligations and the legitimate interests of the United States.

In the opinion of the American people and the American Government, no nation can, without the assent of the other nations concerned, rightfully endeavor to make conclusive its will in situations where there are involved the rights, the obligations and the legitimate interests of other sovereign states.

The American Government has dedicated the United States to the policy of the good neighbor. To the practical application of that policy it will continue, on its own part and in association with other governments, to devote its best efforts.

Tokyo, April 29, 1934.

~~~~~

457 昭和9年5月1日 在南京須磨總領事より
天羽非公式諮詢問題に關し外交部は九國條約關係
國に協議する意図なつたの中國紙報道について
南京 5月1日後発

本省 5月1日後着

第四|五號

我方非公式聲明ニ關シ立法院方面ニ於テ往電第四|四號ノ如キ空氣アル外要人中ニモ支那ハ九國條約調印國會議ノ開催ヲ圖ルベキ旨ノ意見アルニ鑑ミ汪兆銘ハ該條約ニ精通セル王正廷ヲ招致シテ何等協議スル所アリタル趣ニテ王正廷外交部長說モ傳ベラレタルカ右ニ關シ一日ノ新民報ハ外交界消息トシテ外交當局ハ日本ノ態度ヲ靜觀中ニテ此ノ國際九國條約關係國ニ對シ何等協議ヲ爲スノ用意無キ旨ヲ特報セリ

尙中國日報ハ外交部「スピーチスマン」ノ談ムシテ日本ハ第一次聲明ヲ撤回シ寧ロ對支國際共同投資ニ參加スル腹ナルカ如キモ田下ノ所聯盟ノ對支技術合作以外斯ル企畫ナキノミナラス日本ハ既ニ聯盟脫退ヲ通告シタル以上聯盟トシ報セリ

テモ支那ノ反對ヲ俟タス右合意日本ノ參加ヲ認メサルベキ旨ハ報道シ居レリ
支北平へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ
~~~~~

458 昭和9年5月2日 在ジヌネーヴ横山國際會議事務局長  
代理兼総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

天羽非公式談話に關する我が方應答要領英訳文を  
連盟事務総長に申交し我が方眞意説明にハセト

ジヌネーヴ 5月2日後発

本省 5月3日前着

第九七號  
往電第八九號(一)關

當方ヨリ特ニ求メス好機ヲ待チ居タル處先方ヨリ來訪ヲ求

メ來レルニ付一日午後事務總長ニ面會先ツ總長不在中事務

局有力者カ日本ノ對支態度聲明ニ關シ新聞記者團ニ對シ種々臆測ヲ述ヘタルハ遺憾ナリトテ往電第八九號(一)回顧ノ情報(ヲ)載セタル「ハルシ」印刷版ヲ示シ從テ本官モ

色ナキモノナリ右ハ曰下印刷中ニ付「ハース」ト相談ノ

上進呈スヘシ(右ニ對シ本官ハ今日本ハ「ハ」ノ行動ヲ  
云々スルモノニ非ス聯盟ノ對支援助其ノモノニ付關係者  
ノ深甚ノ注意ヲ喚起セントスルモノナリ「ハ」ノ行動ノ

有害ナル一例ハ滿洲事件ノ際南京ヲ指嗾シテ直接交渉ヲ  
妨害シ事件ヲ擴大シタル事實ヲ擧ケ得ヘク聯盟カ對支事

業ニ彼ヲ起用スル爲日本國民カ其ノ行動ヲ疑惑視スルハ  
當然ナリ又宋子文ハ今尙內政的勢力大ニシテ之ト接觸シ

テ政治策動ヲ爲シ得スト斷シ得スト應酬シ置ケリ)

〔〕聯盟ハ支那ニ對シ財政上ノ援助等企テ居ラス「モネー」

ハ聯盟ニ勤メシコトアリ「ラ」トモ友人ナレハ自然支那

ニテ相談相手トナリタルヤモ知レス又新聞ニハ往々「モ」

ト聯盟ト關係アル如ク傳ヘラレタルモ右ハ無根ニテ同人

ハ聯盟辭職後財界進出ラ計リ今回モ其ノ關係ニテ渡支セ

ルモノナレハ此ノ點誤解無キ様政府ヘ御傳達セラレ度シ

(右ニ對シ本官ハ日本ハ聯盟自身カ進テ財政援助ヲ爲ス

モノトハ信シ居ラサルベキモ技術援助モ其ノ實現ニハ財

的援助ヲ要スヘク假令聯盟カ表面上其ノ衝ニ立タストス

ルモ他ニ對シ斡旋ノ勞ヲ取ラハ同様ノ結果ヲ生シ憂フヘ

キ事態生セストモ計リ難シト述ヘタリ)

終リニ總長ハ聯盟對支援助事業ノ將來ニ付悲觀的口吻ヲ漏  
ラシタルヲ以テ本官ハ同感ノ意ヲ表シ支那内政ノ依然混沌  
タルヲ印象セシメ置ケリ

米ヘ轉電シ、在歐各大公使ヘ暗送セリ

459 昭和9年5月3日 在仏國佐藤大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

天羽非公式談話に関する我が方応答要領英訳文  
の交付に對し仏國政府より覚書手交にて  
付 記 五月三日交付

右仏國覚書

パリ 5月3日後発

本省 5月4日前着

第二五九號

往電第二五四號ニ關シ

三日朝亞細亞局長ノ求ニ應シ館員ヲシテ往訪セシメタル處  
同局長ヨリ一曰ニ交付ヲ終ベタル「テキスト」ハ大臣等ニ  
モ報告シタル結果自分ハ更メテ右通告ニ對スル佛國政府ノ

謝意ヲ傳達スルト共ニ右「テキスト」ノ内容ニ對スル佛國

政府ノ意見ヲ傳達スヘキ命ヲ受ケタリ右意見ヲ書物トシタ

ルモノカ別紙ナリトテ別電第一六〇號<sup>(續封)</sup>ノ書物ヲ渡シ右ハ貴

方ヨリノ御通報ノ形式ト等シク決シテ「ノート」ト言フ如

キモノニアラス一ノ「ヌーム・メモアール」ナリ尙佛國政

府ハ貴方ヨリ通報ヲ得タル「テキスト」カ一日東京ニ於テ

公表セラレタルニモ鑑ミ(右公表ノ面爲念)一日中通報シ置

キタリ)今夕右「テキスト」及「ヌーム・メモアール」ヲ何

等「コメント」ヲ附セス餘り大袈裟ナラサル形ニテ公表ス

ル積ナリト述ベタル由ナリ

尙同局長ハ右「ヌーム・メモアール」ハ一日回回長17日ノ

考トシテ述ベタル所ト同シ趣旨リテ唯日本政府ニ於テ九國

條約ヲ尊重セラルルコトヲ「コノファーム」セラル以上

當然ノ歸結トシテ必要ノ場合ハ同條約第七條ノ手續ニ依ラ

ルルモノト信スル旨ノ佛國政府ノ意図ヲ附加シタルモノナ  
リ尙倫敦及華盛頓ヨリノ情報ニ依レハ本問題モ鎮靜ニ歸セ

ントシツツアルモノノ如ク從テ佛國政府トシテモ之ヲ大袈  
裟ニセサル様處理シ度キ考ナリト回回長ノ内詰トシテ述ベ  
タル趣ナリ

本電別電ト共ニ在歐各大使、米、壽府ニ轉電セリ

編注 別電第一六〇號は本文書付記の仏國覚書を若干削除  
して発電したものであるため採録を省略した。

(付 錄)

L'Ambassade du Japon a bien voulu faire tenir au  
Ministère des Affaires Etrangères une copie de la note  
par laquelle le Gouvernement Impérial a précisée l'inter-  
prétation officielle qui doit être donnée aux déclarations  
formulées le 17 avril dernier par le porte-parole du  
Gaimusho concernant la politique japonaise au regard  
des affaires de Chine.

Il résulte de cette communication que, loin de  
vouloir porter atteinte à l'indépendance ou aux intérêts  
de Chine, le Japon souhaite sincèrement le maintien de  
l'intégrité territoriale, l'unification et la prospérité de ce  
pays. N'ayant pas l'intention de méconnaître les droits  
des autres Puissances, le Gouvernement Impérial con-

sidère, par ailleurs, que des activités d'ordre financier et commercial ne peuvent avoir que d'heureux effets pour la Chine. Il confirme en même temps son adhésion aux principes de la porte ouverte et de la chance égale, comme son respect des traités et accords en vigueur relatifs à Chine.

C'est avec satisfaction que le Gouvernement français enregistre l'affirmation ainsi donnée par le

Gouvernement japonais de sa fidélité non seulement aux principes généraux du droit international mais aussi au statut conventionnel qui régit actuellement les rapports de la Chine avec les Puissances étrangères.

De la dernière partie de la note sus-visée, il résulte en fin que le Japon ne saurait rester indifférent à des interventions qui seraient préjudiciables au maintien de l'ordre et de la justice en Extrême-Orient. Si pareilles éventualités devraient se produire en Chine, le Gouvernement français a la conviction que le Gouvernement Impérial chercherait, de concert avec les autres Puis-

編注 本覚書は、東亞局第一課が昭和九年十二月に作成した議会調書「最近支那關係諸問題摘要（第六十七議會用）下巻」より採録。

広田外務大臣より  
在米國齋藤大使、在仏國佐藤大使、在  
中國屈内、在露寺代里、在英使也。危（電報）

地方長官会議における外務大臣演説中東亜に

本省 5月5日後8時0分発

合第五一四號

「普通情報」

四日地方長官會議ニ於ケル本大臣ノ演説中東亞ニ關スル部  
分左ノ通御参考迄  
帝國ハ飽ク迄諸外國トハ親善關係ヲ樹立増進スルト共ニ、  
帝國カ東亞ニ於テ有スル使命即チ帝國カ東亞平和ノ安定力  
ニシテ、其ノ平和及秩序維持ニ付テ、東亞ニ於ケル他ノ諸  
國ト共ニ負擔スル重任ヲ果スコトヲ忘ルヘカラサルナリ。  
此ノ使命ヲ自覺シ努力スルコトハ、帝國カ大國トシテ存立  
スル所以ノ根幹ニシテ、其ノ自覺カ徹底スルニ從ヒ愈々帝  
國及帝國臣民ノ責任ノ大ニシテ、益自重努力ヲ要スルコト

四 中国をめぐる列国との関係  
帝國ハ衷心支那力保全統一セラレ且繁榮向上スルコトヲ希望スルモノニシテ、右目的ヲ達成スル方法ハ、先ツ主義トシテ支那自身ノ覺醒及努力ニ委セラルヘキモノニシテ徒ラニ外部ヨリノ自己<sup>(己)カ</sup>本位ノ援助行動ハ、却ツテ右目的ヲ達成スル所以ニアラサルヲ信ス。況ヤ第三者カ日支關係ヲ紛淆セシムルカ如キ行動ヲ爲シ、又ハ東亞ノ平和及秩序ノ維持ニ逆行スルカ如キ策動ヲナス場合ニハ、帝國トシテハ之ヲ明瞭トナルナリ。

默視スルヲ得サル次第ナリ。從ツテ支那ノ排日行爲乃至策動ノ如キモ亦勿論之カ終熄ヲ期待スルモ、最近ノ情勢ヲ見ルニ、支那ハ漸次帝國ノ眞意ヲ諒解スル傾向アリ、幾分ニテモ兩國親善關係ニ對シ基礎的の理解力進ミツツアルカ如ク見ユルハ満足スヘキ現象ナリトス。此ノ點ハ益努力シ眞ニ日支兩國ノ幸福ヲ齊シ進ンテ相共ニ東亞ノ平和及秩序ノ維持ニ向ツテ大ニ貢獻セサルヘカラサルナリ。

帝國ハ勿論現ニ有效ニ存在スル各國トノ間ノ諸條約乃至ハ取極ハ素ヨリ十分ニ尊重シ、決シテ如何ナル外國ノ條約上ノ權利又ハ利益ヲモ侵スノ意向ナキハ今更述フルノ要ナシ。又必要ナルニ於テハ條約上ノ權利利益ニ付テハ他ノ關係國ト各別ニ意見ノ交換ヲ行フニ何等反對スルモノニアラス。然シ東亞ノ問題ニ付テハ「ゼネバ」ニ於ケル聯盟會議ノ席上ニ於テ、不幸我方見解ハ他國ノ承認スル所トナラス、遂ニ帝國ハ東亞ノ平和及秩序維持ニ關スル責任自覺ノ下ニ聯盟脱退ヲ決定スルノ餘儀ナキニ至リタル譯ニシテ、今後東亞ノ問題ニ就キ曩ノ「ゼネバ」聯盟會議ニ於ケルカ如キ事態ヲ更ニ繰返スコトハ斷シテ不可ニシテ、帝國トシテハ飽ク迄自己ノ使命ヲ堅持シテ關係諸國ノ理解ヲ進ムルコト

ニ努ムルノ要アル次第ナリ。

461 昭和9年5月5日 広田外務大臣 在米国斎藤大使、在英國松平大使、在中國堀内臨時代理公使他宛(電報)

重光・グルー間において天羽非公式談話問題  
などによる両国関係の紛糾回避に關し意見交換について

本省 5月5日発

合第五一七號

二日重光次官「グルー」大使丈ケニテ非公式聲明問題ヨリ引イテ要領左ノ通會談セル趣ナリ右ハ宴席後ノ談話ナリシカ何等御参考迄

一、「グルー」大使ハ米國大統領モ國務長官モ日本トノ友好關係ニ特ニ重キヲ置キ居ルヲ記憶セラレ度シトテ今回ノ對日「エード、メモアール」ニ關シテモ「ハル」長官ハ右ハ日本丈ケニ對スルモノニ非スシテ條約及國際法ニ關スル米國ノ一般的ノ立場ヲ表明シタルモノナリト新聞記者等ニ説明シ輿論ヲ刺戟セサルニ努メ居レル内情ナリト

テ(此ノ點「アレス」等ノ關係上吳々モ極祕ニ願ヒ度ト附言セリ)日米兩國間ノ空氣ヲ荒ララケサルコト肝要ナリトノ趣旨ヲ縷述シ國務長官ハ今日尙廣田「ハル」交換「メツセージ」ノ立場ニ歸ヘルモノニシテ日本側ヨリ何等協議セラルルコトアラハ喜ンテ之ニ應スル次第ナリト述べ居タリ  
二、右談話ノ際日本ニ於テ連リニ一九三五年ノ危機ノ叫ケハレ居ルコトニ言及アリタルニ付次官ハ左ノ要領ヲ以テ説明セリ  
往年日本カ家屋稅問題ニ付海牙法廷ニ臨ミタル際日本ノ敗訴トナルヤ日本人ハ日本人ノ正義ハ到底歐米人ノ容ル所トナラストノ印象ヲ強ク印象付ケラレ爾來仲裁裁判類似ノ制度カ日本ニ於テ信賴ヲ受ケ得サル次第ハ御承知ノ通リナリ。之ト同様ノコトカ滿洲事件以來國際會議ニ對シ感セラルニ至レリ日本人ノ正義ト信スル所カ聯盟會議ニ於テ數名ノ味方モナク四十二對一ヲ以テ蹂躪セラルルヤ日本人ノ國際會議ニ對スル疑惑ハ一層深刻トナリ次ノ軍縮會議ニ於テモ前ノ華府會議ニ於ケルカ如ク東亞ニ關スル政治問題ヲ討議シ單ニ日米英ノ如キ海軍國ノ

ミナラス支那「ソビエット」迄引出シ議論スル場合ニハ再ヒ壽府聯盟會議ヲ繰返スノミナラス其ノ結果ハ捨收スヘカラサルニ至ルヘシ之レ日本ニ於テ一九三五年ノ危機ノ叫ハルル所以ナリ日本ハ聯盟脫退ヲ餘儀ナクセラレテ以來一本道ヲ辿ルノ外ナク東亞ノ問題ヲ國際會議ノ議題トシ再ヒ紛糾ヲ招徠スル餘地ナキ譯ナリ右日本人ノ危惧ノ念ハ政府トシテ到底無視スルコトヲ得サル次第ナリ  
三、次テ次官ヨリ聯盟脫退以來ノ日本ノ事情ニ付説明シ一体  
大平洋ノ兩側ニアル日米間ニ衝突ヲ賭スルカ如キ問題アリヤ(次官ハ例ヘハ「ガム」ノ如キ日本ノ領土ニ包圍セラレ居ル小島スラ之カ米國ノ手ニテ發展スルコトニ異存アル日本人ハ一人モナシト附言ス)反問セルニ大使ハスル問題絶対ニナシト應シタルニ付次官ハ果シテ然ラハ日米兩國ノ政府當局ハ少シニテモ右大局ヲ紛淆セシメサル様努メコソ眞ノ政治家の價値ヲ存スル次第ナリ即チ日米ノ關係ヲ紛糾ヨリ遠ケテ單純化スルコト吾人ノ努ムヘキ所ニアラスヤ單純化スルコトニ依リテ感情ノ混亂ヨリ救ヒ理解アル友情ノ發揮ニ進ムヘシ此趣旨ニ於テ軍縮ノ問題ニ付テモ海軍兵力量ノミノ問題ニ限り日米英ノ間ニテ

462 昭和9年5月8日 在英國松平大使 広田外務大臣宛(電報)

英國上院において労働党議員が天羽非公式談話  
への対応など内閣の対日政策を非難について

ロンドン 5月8日後発  
本省 5月9日前着

第二四八號

七日上院ニ於テ労働黨「ポンソンビー」卿ヨリ政府ニ對シ極東及軍縮會議ニ於テ一層斷乎タル政策ヲ執ランコトヲ勸奨ストノ動議ヲ提出シ且日本ハ今ヤ武力政治ノ下ニ在

リニシニハ東亞「モンロー」主義トモ言フヘキ宣言ヲ爲シタ  
リ然ルニ英國ハ滿洲事變以來常ニ日本ノ主張ニ屈シ之カ  
爲聯盟ノ權威ハ全ク失墜スルニ至レリ外相ハ過般ノ日本  
ノ聲明問題ニ關シ問題ヲ此ノ儘放置スヘシト述ヘタルカ  
斯ノ如キハ現内閣ノ「モットー」トスル所ナリ(ヤ)依テ右  
動議ヲ提出スルモノナリト述ヘ

次テ「セシル」ハ聯盟カ日本ノ九國條約及規約違反ヲ全員  
一致ヲ以テ決議セルニ對シ日本ハ脱退ヲ以テ之ニ酬ヒタ  
リ其ノ後獨逸之ニ倣ヒ爲ニ聯盟ノ信用ハ著シク減シタリ  
政府カ過日日本ノ聲明ニ對シ抗議セルハ英國ノ對支貿易  
ヲ考慮シテ爲セルモノナリヤ將又日本ノ條約違反ニ對シ  
テ爲セルモノナリヤ若シ前者ナリトセハ右ハ頗ル近視眼  
的ノモノナリ若シ「コレクティヴ、システム」カ日本ノ爲  
ニ極東ニ於テ破壞セラルヲ許スナラハ將來英國ノ極東  
ニ於ケル利益ハ總ユル方面ニ於テ毀損セラルヘシト述ヘ  
動議ヲ支持セルカ

「スタムポール」伯(外務政務次官)ハ「ボ」氏ハ我國カ支  
那ノ保全ヲ援助スルコトヲ約シ居ルカ如ク考ヘ居ルモ英  
國ハ獨立ヲ侵ササルコトヲ約シ居ルノミナリ又一九三二

年滿洲問題ニ關シ米國ヲ助ケサリキト言ハルルモ米國ハ  
聯盟國ニ非ス支那カ聯盟ニ訴ヘタル以上聯盟國ハ共同ノ  
動作ヲ執ルノ外ナキナリ又「リツトン」報告モ聯盟モ日本  
ニ制裁ヲ課セヨトハ提議シ居ラス制裁ハ米國ノ參加ナク  
シテハ不可能ナルカ米國カ之ニ參加スヘシトハ到底考ヘ  
ラレサリシ所ナリ、尙過般外相カ「日本ノ特殊ナル權利」  
ト言ハレシカ日本カ其ノ投資シタル鐵道及企業ニ關シテ  
有スルモノヲ指シ英國其ノ他ノ國モ之ヲ有シ居レリト答  
ヘ  
更ニ「ボ」ヨリ政府ハ日本政府カ現ニ九國條約ヲ遵守シ居  
リ且之ヲ遵守スルノ意思アリト考フルヤト問ヒタルニ對  
シ「ス」ハ日本政府ハ其ノ點ニ關シ英國大使ニ明確ナル保  
障ヲ與ヘタリ政府ハ勿論右保障ニ満足スルモノナリト酬  
ヒ「ボ」ハ前記動議ヲ撤回セリ  
米ヘ轉電シ在(歐)各大使及壽府ヘ郵送セリ

463 昭和9年5月16日 在中國國境內臨時代理公使より  
合第五六二號  
在米國齋藤大使、在英國松平大使、在  
中國國境內臨時代理公使他宛(電報)  
天羽非公式談話に対する米國覚書は事前に九

への我が方対応方針について

國條約關係國に内示されその諒解を得たとの  
情報について  
八日内政部傳次長ノa dニ對スル内話  
第三九三號  
一過日ノ中央政治會議ニ於ケル汪精衛ノ報告ニ依レハ最近  
駐米施公使ヨリ米國政府今次ノ對日聲明書ハ事前ニ駐米  
九國條約調印國大公使ニ之ヲ内示シ彼等ノ諒解ヲ求メタ  
ルモノニシテ右内容ハ一見和平的ナルモ其ノ趣旨ニ關シ  
何等「ステイムソンドクトリン」ニ異ル無シ現在米國側  
ノ活動ハ一段落ノ體ナルモ當初空氣緊張ノ際同國ハ九國  
條約擁護ノ爲關係國會議召集ノ用意アリタルハ事實ナル  
旨報告越セル趣ナリ

464 昭和9年5月16日 広田外務大臣より  
合第五六二號  
往電合第四三五號ニ關シ  
九國條約適用ニ關シ新聞紙上等問題トナリ居ル模様ナル處  
右ニ關シ當方ハ左ノ如キ態度ヲ以テ適宜應酬シ居レルニ付  
御參考迄  
一當方ニ於テハ進ンテ九國條約ノ效力ヲ確認スルカ如キ言  
辭ハ一切之ヲ避ケ特ニ九國條約ト言ハス「現ニ有效ニ存  
在スル條約ハ總テ之ヲ尊重ス」トノ趣旨ニテ説明シ居レ  
リ(往電合第四六六號參照)尙九國條約ノ規定スル内容ニ  
付テハ毫モ異議ヲ挾マサル態度ヲ執ルト共ニ其ノ有效無  
效ノ議論ニハ觸レサル様ニシ居レリ。元來華府會議ノ精  
神ハ其ノ後ノ支那ノ事態ニ鑑ミ實際ニ適合セサルハ爭フ  
ヘカラサル事實ニシテ且ツ幾多實施不可能又ハ取極ニ反

北平、南京、漢口、九江へ轉電シ、上海へ轉報セリ  
聞及ヒ居レリ

603

スル事態モ生シ居り從ツテ支那ニ關スル華府諸條約決議  
モ其效力スラ疑シキ次ニテ其適用ニ於テハ素ヨリ大ニ  
考慮ヲ要スルモノアル次第ナリ

三、九國條約第七條ハ同條約ノ規定ノ適用ニ關係アル事態ニ  
付テノミ關係アルモノニテ同條約ニ規定セラレ居ラサル  
事項(例ヘハ今回問題トナレルカ如日本カ東亞ニ於テ  
地理上ソノ他ノ關係ヨリ自然ニ有スル地位)ニ關シテハ  
何等適用ナキノミナラス同條確定ニ至ル經緯ヨリ論スル  
モ將又同條ノ明文ニ徵スルモ同條ニハ明ニ full and  
frank communication (Negotiation ル Conferene  
トモ言ハス)ア between Contracting Powers concerned  
即チ締結國中特別ニ關係アル國(太平洋極東委員會第一  
回首席全權分科會ニ於ケル英國全權ノ陳述參照)各個ト  
ノ間ニ行フトアリ、右ハ關係國トノ間ニ意見ノ交換ヲナ  
スト云フニ過スシテ國際會議ノ如キヲ豫想スルモノニ非  
ス(前記分科會ニ於ケル白國全權ノ陳述參照)從ツテ東亞  
問題ニ關シテハ壽府聯盟會議ノ二ノ舞ヲ繰返ヘサス(五  
月四日地方長官會議ニ於ケル本大臣演說)又支那問題ヲ  
第一次華府會議ノ如キ國際會議ニ於テ論議セストノ帝國

政府ノ方針(往電合第四一六號)ハ何等同條ノ規定ニ抵觸  
スルモノニ非ス、尤モ日本ハ條約ノ規定ノ適用ニ付關係  
各國トノ充分ナル意見ノ交換(個別的)ヲ行フコトニハ何  
等異存ナク現ニ今回ノ非公式談話ニ關シテモ英米其ノ他  
ノ關係國ト隔意ナキ意見ノ交換ヲナシタル次第ナリ

三、九國條約ニハ關係國ノ支那ニ對スル利害關係カ對等ノモ  
ノナリトスルカ如キ規定勿論ナク日本ハ支那ノ事態ヲ判  
斷スルニ最モ好都合ニシテ且ツ重要ナル地位ヲ有スルモ  
ノナリ又日本カ地理的其ノ他ノ關係ヨリ東亞ニ於テ自然  
ニ有スル地位ノ如キハ前述ノ通り本條約ニ依リ何等拘束  
サルモノニ非ス(此ノ點ニ關シ往電合第四六〇號本大  
臣「リンドレー」會談中本大臣カ九國條約締結國ナリト  
云フ共通ノ權利以上ノ權利ハ同條約ニ關スル限り要求シ  
難カルヘシトノ趣旨ヲ述ヘタル點御參照アリ度)

四、之ヲ要スルニ日本ハ東亞ニ於ケル地位及責任ニ鑑シ冒頭  
往電ヲ以テ申進メタル三原則ヲ堅持シ支那其ノ他東亞ノ  
諸國ト共ニ東亞ノ平和及秩序ノ維持ニ努力シ之ニ反スル  
(尤モ何カ平和及秩序ノ維持ニ反スルヤノ問題ハ具体的  
ニ說明スルコトハ努メテ之ヲ避ケ「右ハ其ノ都度之ヲ檢

討スルヲ要スヘキモ關係者ノ良心ニ依ツテ最モ明瞭ニ判

斷セラレ得ル筈ナリ而シテ東亞ノ事態ノ判断ニ付テハ日

本ハ最モ責任アル地位ニアルハ當然ナリ』ト應對シツツ

アリ)如何ナル第三者ヲモ排斥スルト言フハ何等九國條

約ニ恃ル所ナシ又條約ニ規定セラルル關係各國ノ權利利

益ニ關シ各國ニシテ欲スルニ於テハ日本ハ夫々(各別ニ)

之ト意見ノ交換ヲナスニ者ナラサルハ前述ノ通ナリ

本電宛先 英、米、支、滿、北平、南京

英ヨリ在歐各大公使及壽府ヘ暗送アリ度

米ヨリ紐育、加奈陀、玖馬、墨ヘ暗送シ伯ヘ轉電アリ度

伯ヨリ在南米各公使ヘ暗送アリ度

465 昭和9年5月18日

広田外務大臣より  
在米国斎藤大使宛(電報)

九國条約を正義に解釈し中國問題は利害關係

国会議で討議すべしとの米国主張に対する我

が方立場を同國國務長官に申入れ方訓令

別 電 五月十八日発広田外務大臣より在米国斎藤大  
使宛第一三〇号

右申入れ要請

本省 5月18日発

第一二九號

往電第一〇八號及貴電第二三七號ニ關シ

左記心得ノ上國務長官ニ面會シ別電第一三〇號ノ趣旨ヲ口

頭ニテ申入レラレ度

(一)米國覺書ハ米國ノ主張ヲ留保シ置キ他日具体的問題發  
生ノ際之ヲ援用セムトスル用意ニ出テタルモノト認メラ  
ルル處右覺書第四項迄ハ抽象的ノ敍述ト見得ヘキモ第五

項(即チ in the opinion 以下)ハ「<sup>(1)月廿一日</sup>「ハル」「メツ  
セイジ」ノ末尾カリ「<sup>(2)月廿一日</sup>」In the light of these

facts...with definite and lasting advantage to all ル  
アルト對應シテ我方聯盟脫退ノ根本義(我方聯盟脫退通  
告文參照)ヲ否定セムトスルモノト認メラレ我方トシテ

容認シ得サルコト申ス迄モナシ。蓋シ右「ハル」「メツセ  
イジ」ノ一節及米國覺書第五項等ニ顧ルニ米國政府ニ於テ  
ハ(一)九國條約ヲ殊更重要な廣義ニ解シ且東亞ノ問題ニ付  
利害關係國(露國ヲモ引入レル意図カ)ハ總テ同等且共同  
ノ地位及責任ヲ有スルモノト解シ剩工同條約ノ解釋サヘ

モ共同ニナスヘキモノトナシ（斯ノ如キ解釋乃至主張ニ我方カ同意シ得サルコト勿論ナリ、往電合第五六二號（一）而シテ右問題ノ處理及解決ハ利害關係國ノ共同討議（國際會議）ニ依ル様形勢ヲ誘導セムトスルノ趣旨ニ在ルコト疑ラ容レス

（二）、然ルニ今後日本ハ東亞ノ事態ヲ國際會議又ハ多邊的條約ヲ以テ規律スルカ如キコトヲ容認シ得サルモノナリ。蓋シ華府會議以來東亞ノ事態ハ支那問題ヲ中心トシテ根本的ニ變化ヲ來シ殊ニ支那ノ實情ハ同會議ノ目的トセル所ニ全然背馳シ國際會議又ハ多邊的條約ニ依リ支那問題ノ處理解決セムトセル企圖カ完全ニ失敗ニ歸シタルコトヲ明示シ居レリ。加フルニ滿洲事件發生以來列國カ日本ノ主張ヲ無視シ遂ニ日本ヲシテ聯盟ヲ脱退スルノ餘儀ナキニ至ラシメタル結果日本ハ東亞ノ平和及秩序ノ維持ニ付テハ自己ノ存立ニ關スル問題トシテ東亞ノ諸國ト共ニ責任ヲ分ツノ外ナキコトトナレリ。將又如何ナル現存ノ條約又ハ取極モ將來東亞ノ問題ヲ必ス國際會議ノ議題トシテ論スヘキコトヲ規定シ居ルモノニ非ス。

（三）、敍上ノ次第二顧ミ若シ米國カ日本ノ立場ヲ理解セスシ

コトヲ米國側ニ次第二徹底セシメ行キ以テ往電合第四一六號ノ目的達成ニ資スル様可然御配慮相成度別電ト共ニ滿、支、北平、南京、英ニ轉電セリ英ヨリ土ヲ除ク在歐各大使及壽府ニ暗送アリ度

（別電）

本省 5月18日発

第一三〇號

一、米國政府ハ四月二十九日附覺書ヲ以テ曩ニ新聞通信ニ報道セラレタル支那問題ニ關スル日本ノ態度ニ關スル記事ニ關聯シテ米國ノ支那ニ關スル權利、義務及利益ニ付主張ヲ明ニセラレ、又米國ノ條約上及國際法上ノ立場ニ關シ說明セラレタリ。

二、本件ニ關スル帝國政府ノ立場ハ四月二十五日廣田大臣ヨリ「グルー」大使ニ與ヘタル説明及同月二十七日同大臣ヨリ同大使ニ通達セル文書ニ依リ既ニ明ニセラレ居ルモノト認ムルノミナラス「グルー」大使ニ於テ前記覺書ヲ廣田大臣ニ手交セラレタル際米國側ハ必スシモ帝國政府ノ回答ヲ期待シ居ラル、次第ニハ非リシ經緯モアリ旁々

テ軍縮會議等ノ機會ニ列國並支那及露國ヲ誘ヒ第二次華府會議様ノモノヲ開カントスルノ底意ヲ有スルニ於テハ日本ハ當初ヨリ之ニ加ハルコトヲ得サルヘシ（日本ハ壽府會議ヲ再ヒ繰返スハ單ニ日本ノ不可能トスル所ナルノミナラス世界ノ安定ニ逆行スルモノトノ信念ヲ以テ行動スルモノナリ）從テ次回軍縮會議ニ於テハ斯ノ如キ當初ヨリ不可能ナルコト明ナル事項ニ手ヲ觸レ爲ニ會議自体ヲ不成功ニ誘フカ如キ政治問題ヲ一切拔キニシテ單ニ海軍問題ノミヲ議題トスルニ於テハ或ハ成功ノ見込アルヘクスケシテ世界ノ安定ニ一步々々貢獻スルコト大國ノ執ルヘキ措置ト思考セラル

（四）、尤モ當方ニ於テハ好ンテ米國側ト議論ヲ上下スル考ハナキモ右我方ノ立場殊ニ前記（一）、二付テハ此ノ際別電ノ程度ニテ一應米國側ニ申入レ置クコト可然ト認ムル次第ナリ

（五）、將又我方ニ於テハ本件申入ヲ切掛トシ漸次米國側ト意見ノ交換ヲ進メ以テ軍縮會議ノ地ナラシヲナシ度意嚮ナルニ付前記（一）、（三）、等ノ諸點及屢次ノ往電御參照ノ上我方カ今後國際會議ニ於テ支那問題ヲ論議スルノ意嚮ナキナリ

帝國政府ハ本件覺書ニ對シ更ニ書面ニ依ル回答ヲナシ且之ヲ公表スルコトヲ機宜ノ措置ト認メサル次第ナルニ付右御諒承相成度。尤モ帝國政府ハ米國覺書ニ於テ示サレ居ルカ如キ友好的ニシテ且率直ナル感情ヲ以テ兩國政府間ニ隨時意見ノ交換ヲ行フコトカ曰米關係ノ將來ニ對シ一層ノ好影響ヲ與フヘキヲ信スルモノナリ。

三、抑モ東亞ニ於ケル平和及秩序ノ維持ハ帝國カ其ノ國家存立上最モ重キヲ置ク所ニシテ從テ帝國カ其ノ地理的地位ニモ顧ミ東亞殊ニ支那ノ事態ニ付特殊ノ關心ヲ有スルモノナルコト多言ヲ要セサルヘシ。（右關心ハ數年來ノ東亞ニ於ケル事態ノ變遷ニ鑑ミ一層深メラレタリ）而シテ帝國政府ハ右帝國ノ有スル特殊ノ關心ニ基キ東亞殊ニ支那ノ實情ニ即シテ事態ノ處理ニ當ラントスルモノナリ。固ヨリ帝國政府ハ現ニ有效ニ存在スル諸條約及取極ニ關シテ帝國カ締約國トシテ有スル義務ヲ回避スルコトヲ考慮セス。又帝國政府ニ於テ米國其ノ他ノ國ノ正規ノ權利、利益ヲ侵犯スルカ如キ何等ノ意圖ナキコト勿論ニシテ且帝國政府ハ此等ニ關係スル具体的の案件ノ發生スルニ於テハ實際ノ事態ニ適合スル爲其ノ都度關係國政府ト出來得

ル限り意見ノ一致ヲ見ル様夫々意見ノ交換ヲ行フコトニ

躊躇スルモノニ非ス。然レ共帝國政府トシテハ支那問題

ニ關聯シ意見ノ交換ヲナスニ當リ東亞殊ニ支那ノ現實ノ事

態及前記帝國ノ有スル特殊ノ關係并ニ特ニ曩ニ日支事件

ニ關聯シ帝國ラシテ聯盟脫退ヲ決意スルノ餘儀ナカラシ

ムルニ至レル事情ヲ無視スルヲ得サルモノナリ。

四、要之帝國政府ハ衷心米國トノ歴史的善隣關係ノ維持増進ヲ希望スルト共ニ帝國ト米國トノ關係ニ於テ根本的二解決困難ナル問題ノ存在セサルコトヲ信スルモノニシテ、日米兩國ノ立場ニ付相互ニ誤解ナカラシメ以テ兩國國交ノ圓滿ヲ期スルノ見地ニ基キ帝國政府ハ米國政府カ友好的精神ヲ以テ率直ニ開陳セラレタル今ノ陳述ヲ歡迎スルト共ニ此ノ機會ニ同様ノ精神ヲ以テ以上ノ如ク率直ニ其ノ立場ヲ開陳セル次第ナリ。

466 昭和9年5月20日 在米國齋藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

天羽非公式談話に関する米国覺書に対し我が  
方立場を同國國務長官に口頭申入れの上九國

#### 条約適用問題などに関し意見交換について

ワシントン 5月20日後発

本省 5月21日前着

貴電第一二九號(極秘級)  
第二七〇號(極秘級)

十九日國務長官ヲ往訪先ツ冒頭貴電第一三〇號ノ趣旨ヲ口頭ニテ詳細説明シ特ニ虛心坦懐ナル意見交換ヲ重ヌルコトハ大臣ノ重キヲ置カルル所ニシテ之ニ依リ兩國政府間ノ諒解ヲ進メ協力ノ實ヲ擧ケ得ヘシト考ヘ居ラルコト御含相成度日本カ國際聯盟ヨリ脱退セル事情ニ付テハ既ニ御承知ノコト存スル處日本トシテハ其ノ東亞特ニ支那ニ關シ重要ナル利害關係ヲ有スル結果事實ヲ直視シテ政策ヲ行ヒタルニ對シ聯盟ニ於ケル諸國中ニハ事實ニ即セサル抽象論ニ驅ラレ自國ノ聯盟ニ對スル關係ノミヲ顧慮シ言動ヲ爲シタル爲衝突ヲ免カレサリシ次第ナルカ聯盟諸國モ大体ハ腹ノ中ニテハ日本ノ苦境ヲ諒解シ事實上ハ日本ノ執リタル手段カ已ムヲ得サリシコトハ之ヲ認ムルモ唯法理的ニ見テ辯護困難ナリト言フ位ノ氣持ヨリ投票ヲ爲セリ日本トシテハ其ノ生命線ニ關スル問題ナルカ故ニ斯ノ如キ机上ノ空論ニ掛タルニ

リ合ヒ居ルコトヲ得ス斷乎タル處置ニ出テタルモノナリ從テ將來ニ於テモ再ヒ利害關係ノ程度同シカラサル國ヲ交ヘタル國際會議ニ於テ支那問題ヲ議スルコトハ「ワース、ザン、ユースレス」ト考ヘサルヲ得ス近ク開カルルコトトナルヘキカト思ハル海軍會議ニ於テモ華盛頓會議ノ際ノ如ク同時ニ東洋問題ヲ議スルコトハ日本ノ承服シ難キ所ナリ華盛頓會議ニ於テハ種々ノ條約約定出來タルカ之等ハ何レモ其ノ後十年位ノ間ニハ支那ノ狀態カ餘程改善セラルヘキコトヲ豫定シテ作ラレタルモノナルニ事實ハ之ニ反シ支那ノ實狀ハ混亂ヨリ更ニ混亂ニ陥レリ例ヘハ第十決議ニ於テ支那財政ノ建直シニハ裁兵カ必要ナリトノ點ヨリ列國ハ支那ニ之ヲ勸告シ居レリ然ルニ實際上ハ裁兵所カ兵ハ更ニ其ノ數ヲ増シ財政ハ愈窮乏ニ向ヒ居ルニアラスヤ等申述ヘ且廣田大臣ノ了解セル所ニテハ「グルー」大使カ貴國ノ聲明ヲ手交セル際別段返事ヲ求メ居ラサル趣ニテ旁更ニ公ニ書翰ヲ往復シ之ヲ公表スルカ如キハ面白カラサルニ付日本政府ノ意嚮ヲ口頭ニテ申上ケヨトノ訓令ナリト述ヘタルニ「ハル」ハ善ク了解セリト答ヘ實ハ別段「グルー」ニハ日本ヨリ返事ヲ要求スルモノニアラストノ訓令ハ出ササリシ

モ自分ノ考ニテハ日本カ返事スルモセラレサルモ自由ナリト考ヘ居タル次第ナリ併シ趣旨ニ於テハ米國ノ聲明ニ賛成ナリヤト尋ネタルニ付根本觀念ニ於テハ全然同感ナルカ其ノ根本思想ノ應用ニ付テハ常ニ事實ニ即シ考ヘラレ度シトノ見地ヨリ大臣ハ日本ノ東洋ニ於ケル立場ヲ更ニ申述ヘ兩國間ノ意思疏通ニ資スルコトトシ度キ心持ナルヘシト述ヘタルニ<sup>(2)</sup>

「ハル」ハ其ノ點ハ解リタリ自分ハ華府條約時代ノコトハ好ク知ラサルモ若シ其ノ當時ニ作ラレタル條約約定等カ其ノ後ノ事態ニ顧ミテ事實ト掛離レタルモノトナリ居ルナラハ之ヲ廢棄シテハ如何日本邊リハスルコトハ考ヘ居ラレスヤ自分トシテハ時代ノ進運ニ副ハサル約定ニ何處迄モ拘ハリ居ル必要無シト思フ決シテ御獎メスル譯ニハ非サルモ斯ルコトモ考ヘラル可シト述ヘタルニ付

本使ハ例ヘハ九國條約ノ如キハ廢棄規定無キニ付日本丈ニテ之ヲ廢棄スル譯ニハ行カサルノミナラス日本ハ必スシモ之ヲ廢棄セント考ヘ居ラス廣田大臣ノ覺書ニモアル通日本ハ之ヲ嚴守スル覺悟ナリ唯問題ハ條約規定其ノモノニ非スシテ規定ヲ應用スルニ當リ規定内ニテモ種々ノ「ミスチ」

「アルニ付列國カ右ノ範圍ニテ東洋ニ「ミスチーフ」ヲセサル様ニトノ趣旨ナリ(ト)述ヘタルニ「ハ」ハ其ノ點了解セリト答ヘタリ尙「ハ」ハ友人トシテ遠慮無ク申上クレハ或ハ日本ハ最近餘リ「ホーミュラ」ニ拘泥セル言ヒ方ヲシ居ラレスヤ頻リニ平和ヲ高唱セラルルカ爲中ニハ平和トイカル、エンド、エコノミック、オーバーロードシップ」

表面ノ「カムフラージュ」ニシテ底意ハ東洋ニテ「ボリハ居ラレスヤ頻リニ平和ヲ高唱セラルルカ爲中ニハ平和トイカル、エンド、エコノミック、オーバーロードシップ」

ヲ確立セントスルニ非スヤトノ危惧ヲ懷クモノアリ寧口事件ノ現實ニ起リタル場合ヲ捉ヘテ關係國ニ注意サレタル方

實效多キニ非スヤト考フト述ヘタルニ付本使ハ眞ニ御尤ニシテ日本モ右ノ如キ態度ヲ執ラントシ居ルニ違ヒ無シ唯時ニハ事ヲ明ニ抗議ヲ爲シ得ル程度ニ進ム迄待チ居リテハ手

遅レトナリ却テ不必要ノ紛糾ヲ釀スコトアリ勝ナリ從テ日本トシテハ事ノ餘リニ進マサル前ニ即チ個々ノ事件トシテ抗議等ヲ爲ス程ニナラサル以前ニ注意ヲ喚起スル必要ニ驅ラル場合アリ得ヘシト考フト答ヘ置ケリ「ハ」ハ之ニ對シ御趣旨ハ充分了得セリト述ヘタリ尙在英大使來電第二五號ノ次第モアリタルヲ以テ本使ハ海軍會議開催ニ付テハ其ノ開催地又ハ準備行爲ニ付何等御考アリヤト尋ネタルニ

「ハ」ハ其ノ問題ニ關シテハ未タ何事モ考ヘ居ラスト答ヘ

タリ

英ニ轉電シ貴電ト共ニ紐育、桑港ニ暗送セリ

467 昭和9年5月22日 広田外務大臣より

在米國齋藤大使宛(電報)

中国問題への現行条約適用に当たり外国と見解の相違がある場合我が方は独自の見解にて進み國際會議による討議には応じない方針である旨訓令

第一三六號(極祕) 本省 5月22日発

貴電第二七〇號ニ關シ

「我方ノ主旨トスル所ハ現存ノ諸條約取極ヲ尊重スルモ之カ運用ニ當リテハ帝國ノ有スル特殊ノ關心ニ基キ東亞殊ニ支那ノ實狀ニ即スルヲ要シ從テ聯盟脫退ノ經緯ヲ無視スルヲ許ササルコト(右主張ノ半面ニ於テ我方ハ東亞ノ問題ニ付若シ外國ト見解ヲ異ニスル場合ニハ自然聯盟ニ於ケルト同様獨自ノ見解ニ依リテ進ムノ外ナキ次第ニシテ單ニ外國側ノ「ミスチーフ」等ヲ排除セムトスルニ止

ラサル譯合ナリ)及將來國際會議ニ於テ東亞ノ問題ヲ議セサルヘキコトヲ強調シ以テ一方米國覺書第五項ニ應酬

スルト共ニ他方軍縮會議ニ於テ東亞ノ問題ヲ論議スルコトヲ未然ニ阻止セムトスルニ存スル次第ナルニ付右御含

ノ上此ノ上共往電合第四一六號ノ趣旨達成方ニ努メラレ度

三、尙十九日ノ會談ニ於テ九國條約ニ言及セラレ居ル處我方トシテハ往電合第五六二號ノ通我方ヨリ進ンテ同條約ヲ援用シ殊更其ノ效力ヲ確認スルカ如キコトハ避ケ度考ナルニ付此ノ點特ニ御留意相成度

英ニ轉電セリ

英ヨリ土ヲ除ク在歐各大使及壽府ニ暗送アリ度  
紐育、桑港ニ暗送アリ度

~~~~~

468 昭和9年6月8日 在ニユー・ヨーク沢田總領事より
広田外務大臣宛(電報)

訪米中の近衛に対しラモントより天羽非公式談話の反響など米国対日世論の現状を説明について

「ハ」ハ其ノ問題ニ關シテハ未タ何事モ考ヘ居ラスト答ヘ

レニ有リヤニ付内心危惧ノ念ヲ抱ク者アル旨ヲ述ヘタル後
米國人トシテハ日本カ支那ニ新市場ヲ開拓スルコトニ對シ
排他的ナラサル限り之ニ異議ヲ唱フル者無シ唯手段トシテ
武力ニ訴へ(サル)コト肝要ニシテ今一ハ突然ノ聲明書ヲ發
表シテ世間ニ「センセーション」ヲ與ヘサルコト必要ナリ
過般ノ對支政策聲明ノ如キモ遺方ニ依リテハアレ程ノ反響
ヲ捲起サヌシテ列國ヲ納得セシメ得タルニアラスヤトモ考
ヘラル尙日本ノ一部ニハ米國カ日本ノ進運ヲ「チエツク」
シツツアリトカ或ハ支那ヲ手先ニ使ヒテ日本ニ當ラシメツ
ツアリトカノ誤解アルカ如キモ米國ニハ絶對ニ斯ル考無シ
ト信ス自分ノ聞ク所ニテハ蔣介石ハ隨分日本虜負ナリト云
フコトナルヲ以テ精々之ヲ利用シ日本側ニ於テモ「ハーブ、
ウエイ」ヲ歩ミ出シテ成ルヘク速ニ日支間ノ難問ヲ「コン
ポーツ」スルコトニ努メラレンコトヲ望ム旨ヲ附言シタリ

尙「アンダーソン」(往電第六八號參照)ハ頻リニ「ヤング、
チャイナ」ノ祖國建設ニ對スル意氣ヲ買ツテ遣ルヘキモノ
アル所以ヲ說キ支那經濟復興ニ付テハ地理的關係上其ノ利
益ノ最大部分ヲ收得スルモノハ日本ナルニ拘ラス聯盟カ其
ノ復興ヲ援助セントスルニ對シ日本カ反對スルハ腑ニ落チ
サル所ナル旨ヲ述ヘ近衛公ヨリ從來ノ經濟援助ハ支那ノ政
狀ヲ混亂セシムル結果トノミナリ居ルカ故ニ贊成シ得サル
ナリト答へ之ニ對シテモ「ア」ハ執拗ニ聯盟ノ事業ハ續行
セシメ差支無キノミニマラス結局日本ノ爲ニモ利益ナラスヤ
ト繰返シ述ヘ居リタリ

英、米ヘ轉電セリ

英ヨリ佛、壽府ヘ轉電アリタシ

英ヨリ佛、壽府ヘ轉電アリタシ

五 満州国をめぐる諸問題

1 一般問題

469 昭和9年1月9日 在滿州国菱刈大使より
広田外務大臣宛(電報)

満州国銀行法の日本側銀行への適用に關し我
が方の自發的協力を満州国側要望について

付記一 昭和八年十二月二十一日發在吉林森岡(正平)

總領事より広田外務大臣宛電報第三三二号

右適用は不当であり満州国政府に抗議方菱刈

大使に要請について

二 昭和八年十二月二十七日發広田外務大臣より
在滿州国菱刈大使宛電報第一一五七号

右適用は不当につき満州国政府より事情調査
方訓令

三 昭和八年十二月五日付、通商局第三課永井(洵
一)嘱託作成

「滿洲國銀行法令ニ關スル件(私見)」

新 京 1月9日後発
本 省 1月9日後着

第一六號

客年貴電第一一五七號ニ關シ

當館係官ヲシテ財政部理財司長ニ付取調ヘシメタル處本件
通牒ハ外國銀行ニ對シ一律送附セラレタルハ事實ナルモ財
政部ニ於テハ治外法權國銀行ニ對シ本件銀行法ニ伴フ取締
殊ニ帳簿ノ検査、營業許可ノ許否取消其ノ他供托金ノ提出
要求等ヲ強制的ニ適用セントスルモノニ非ス只財政部トシ
テハ全滿ニ亘リ金融狀況ヲ知悉スル必要アルヲ以テ此ノ際
日本側銀行ニ於テモ差支無キ限り自發的ニ銀行法ニ規定ス
ル書類ヲ提出シ滿洲國側金融政策遂行ニ共助スルコトシ
度ク當方ノ盡力ヲ懇請ノ次第アリタルヲ以テ係官ニ於テ治
外法權ノ關係上本件滿洲國側取締ハ日本側銀行ニ對シ全然
強制力ヲ有セサル旨駄目ヲ押シタル上尙考究ノ上出來得ル